

1 議 事 日 程（4日目）

〔令和3年太宰府市議会第2回（6月）定例会〕

令和3年6月11日

午前10時開議

於 議 事 室

日程第1 一般質問

一般質問者及び質問項目一覧表

順位	質問者氏名 (議席番号)	質 問 項 目
1	橋 本 健 (16)	<p>1. 社会教育の積極的な推進について</p> <p>(1) 社会教育関係団体の現状 本市の青少年を対象とした社会教育に関係する団体名とそれぞれの活動状況について伺う。</p> <p>(2) 社会教育関係団体の問題点と対策 各団体のかかえる問題点とその対策、また連携した活動による活性化は図られているのか伺う。</p> <p>(3) アンビシャス広場づくりの推進 本市は現在、4広場が活動しているが、今後、未来を担う子どもたちの心身の育成に最適な広場づくりを進めていく必要があると考えるが、市の見解を伺う。</p>
2	藤 井 雅 之 (14)	<p>1. 市の上踏切周辺の今後について 3月末で拡幅工事が完了したが、周辺の交通体系など諸課題について伺う。</p> <p>2. 避難所のあり方について 昨年夏の大雨時に避難所として活用された「とびうめアリーナ」が、新型コロナウイルスのワクチン接種会場になっているが、災害時の避難所活用の可否及び市民への周知について伺う。</p>
3	門 田 直 樹 (15)	<p>1. 新型コロナウイルスワクチン接種事業について 接種事業の現状と今後について伺う。</p> <p>(1) 接種対象者について 医療従事者等への接種の進捗状況 年代別に予定する接種対象者の範囲と概数、接種順位</p> <p>(2) 接種体制とスケジュールについて 全体の実施期間の見込み、対象範囲ごとの予定期間 集団接種会場でのレーン数の増減見込み キャンセル分のワクチンの処分</p>

		<p>集団接種以外に医療機関等での個別接種や巡回接種等を行うことについて</p> <p>(3) 市民への情報提供について</p> <p>市の広報、Web、掲示板などで発信しておられるが、在宅療養中の方や介護を受けておられる方、また様々な理由で外出が難しい方等への周知方法</p> <p>(4) 接種の予約について</p> <p>機器の操作が困難な方や、電話が通じない等で来庁される方々への対応</p>
4	入江 寿 (7)	<p>1. ICT教育について</p> <p>ICT教育について以下の5点を伺う。</p> <p>(1) タブレット配布後の取り組みについて</p> <p>(2) 教員のICT教育指導力向上の取り組みについて</p> <p>(3) 学校と各家庭を繋いだICT教育の実施について</p> <p>(4) 「つばさ学級」の児童生徒などへのICT教育の取り組みについて</p> <p>(5) 太宰府市のICT教育の将来を見据えた取り組みについて</p>
5	笠利 毅 (5)	<p>1. 中学校完全給食について</p> <p>ランチサービスでは実現できない市としての目標・課題が給食にはあるはずである。何もすすんでいないという声もあるなか、いま市は何をしているのかを伺う。</p>

2 出席議員は次のとおりである（18名）

1番 柳原 莊一郎 議員	2番 宮原 伸一 議員
3番 舩越 隆之 議員	4番 徳永 洋介 議員
5番 笠利 毅 議員	6番 堺 剛 議員
7番 入江 寿 議員	8番 木村 彰人 議員
9番 小島 真由美 議員	10番 上 疆 議員
11番 原田 久美子 議員	12番 神武 綾 議員
13番 長谷川 公成 議員	14番 藤井 雅之 議員
15番 門田 直樹 議員	16番 橋本 健 議員
17番 村山 弘行 議員	18番 陶山 良尚 議員

3 欠席議員は次のとおりである

なし

4 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（16名）

市長 楠田 大蔵	副市長 清水 圭輔
教育長 樋田 京子	総務部長 山浦 剛志
総務部理事 五味 俊太郎	健康福祉部長 田中 縁

都市整備部長 高 原 清
教 育 部 長 藤 井 泰 人
防災安全課長 白 石 忠
建 設 課 長 中 山 和 彦
学校教育課長 鳥 飼 太

都市整備部理事
兼総務部理事 山 崎 謙 悟
教 育 部 理 事 堀 浩 二
元気づくり課長 安 西 美 香
建設課用地担当課長兼
県事業整備担当課長 伊 藤 剛
社会教育課長 添 田 邦 彦

5 職務のため議事室に出席した事務局職員の職氏名（5名）

議会事務局長 木 村 幸代志
書 記 平 田 良 富
書 記 井 手 梨紗子

議 事 課 長 花 田 善 祐
書 記 岡 本 和 大

再開 午前10時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（陶山良尚議員） 皆さん、おはようございます。

定刻になり、出席議員も定足数に達しておりますので、ただいまから休会中の第2回定例会を再開します。

直ちに本日の会議を開きます。

議事日程はお手元に配付しているとおりです。

議事に入ります。

ここで議員8名退場のため、暫時休憩します。

休憩 午前10時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午前10時00分

○議長（陶山良尚議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第1 一般質問

○議長（陶山良尚議員） 日程第1、「一般質問」を行います。

橋本健議員から一般質問の資料配付の申出がありましたので、許可をし、机上に配付いたしておりますので、お知らせいたします。

16番橋本健議員の一般質問を許可します。

〔16番 橋本健議員 登壇〕

○16番（橋本 健議員） 皆さん、おはようございます。

ただいま議長より質問の許可をいただきましたので、通告書記載の社会教育の積極的な推進について質問させていただきます。

学校教育は、学力や体力の向上と豊かな心を育む知徳体のバランスが取れた子どもの育成を目指しています。本市におきまして、校長先生をはじめ教職員関係の皆様が愛情を持って熱心に努力されていることに、心より感謝申し上げます。

確かに今日では、いじめや不登校が増加し、いじめによる自殺など深刻な課題があるのも事実です。しかし、欧米や中国などの諸外国では、日本の学校で当番により児童自らが協力し合い、給食の準備と後片づけをすることや、全員で行う日常的な教室の清掃、また高学年と低学年が一緒になって学校に行く集団登下校の取組など、協調性や思いやりを育む教育に大変注目しています。こうした日本の学校教育が海外ではとても評価されています。

そこで、私のライフワークでもあります社会教育、特にたくましく元気に育てる青少年教育にスポットを当て、質問させていただきたいと思っております。

社会教育と言われても、瞬時には分かりづらいと思いますが、社会教育とは端的に申しますと、学校で行われる教育以外を指し、学校教育と社会教育は表裏一体であって、いずれも子ど

もの成長には必要欠くべからざるものであります。

文部科学省は、地域の活動を担ってきた社会教育関係団体等が、少子化等の影響により活動への参加者が十分に集まらないなど、その活動を縮小する傾向があり、地域の教育力が低減していると指摘しています。こういった状況を打破するため、地域と学校が連携し、地域の教育力を学校に反映させる仕組みでありますコミュニティ・スクール、学校運営協議会制度が設置され、地域の教育力の充実が図られていることは、とても喜ばしい限りです。

しかしながら、社会教育においても数多くの問題点や課題もあることと存じます。本市の社会教育が向上し、さらに充実することを願いつつ、次の3項目について質問させていただきます。

1、社会教育関係団体の現状です。本市の青少年を対象とした社会教育に関する団体名と、それぞれの活動状況についてお伺いします。

2、社会教育関係団体の問題点と対策です。各団体の抱える問題点とその対策、また連携した活動による活性化は図られているか、お伺いします。

3、アンビシャス広場づくりの推進です。本市は現在、4広場が活動していますが、今後未来を担う子どもたちの心身の育成に最適な広場づくりを進めていく必要があると考えますが、市の見解をお伺いします。

ご回答よろしくお願いたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） おはようございます。

それでは、社会教育の積極的な推進についてご回答いたします。

まず、1項目めの本市の青少年を対象とした社会教育に関する団体名とそれぞれの活動状況について伺うについてですが、現在本市には、青少年を対象として連携を行っている社会教育団体は7団体あります。

まず、太宰府市PTA連合会であります。児童・生徒の健全な成長と保護者、教師が協力して教育の振興を図ることを目的に、研修会の開催や広報活動、ほかの社会教育団体との交流を行っています。

次に、太宰府市子ども会育成会連合会であります。子ども会イベントの主催、地域40組織の単位子ども会に対しての育成指導及び相談役としての役割を担っています。また、子ども会のリーダー研修会など、子どもを対象とした研修会での講師やサポート役としても活躍しています。

次に、太宰府市青少年育成市民の会であります。市内の社会教育の関係団体が地域を挙げて青少年の健全育成を推進するために、組織連携して活動することを目的に、街頭補導、悪書追放運動、環境浄化に係る活動のほか、広報誌「市民の会だより」の発行も行っています。

次に、太宰府市補導連絡協議会であります。青少年の非行防止活動として、月に2回、第1、第3金曜日に夜間街頭補導を実施しています。また、中学校の卒業式や成人式、市民まつ

りなどの若者が集まる場所において、見守り活動を市とも連携を行い実施しています。

次に、太宰府ジュニアリーダーズクラブであります。市が主催する子ども会のリーダー研修会や前述の子ども会育成連合会が主催する行事において、子どもたちのお兄さん、お姉さん役として活躍しています。また、昨年度は商工会青年部と協力して、水城の高速道路の高架下の落書き消しの作業を行いました。

次に、太宰府市アンビシャス広場連絡協議会であります。こちらは、市内4つのアンビシャス広場がそれぞれ放課後や休日に学習活動、体験活動、触れ合い活動などに趣向を凝らして取り組んでいます。特に力を入れているのが折り紙ヒコーキ大会で、多くの小学生が参加するとても人気のある事業となっています。

最後になりますが、太宰府少年の船協会であります。事前、事後の研修を含めた海洋研修、歴史研修などを毎年実施しており、平成3年に姉妹都市団体協定を結んだ百済少年の星との交流事業にも取り組んでいます。また、乗船に参加をした後には、地域の青少年リーダーとして多くの方が活躍しています。

次に、2項目めの各団体の抱える問題点とその対策、また連携した活動による活性化は図られているのか何うについてですが、近年、各団体の抱える問題点としては、人材の担い手不足と高齢化が挙げられます。

その解決策といたしまして、市としては事業の効率化を図るための助言を行うとともに、運営する役員の負担軽減と新しい人材の発掘及びその育成のために、交流、情報交換の場としての研修会や人材発掘のための機会づくりに継続して取り組んでおります。

また、連携した活動については、各団体の取組にお互いが協力し合うという活動のつながりがあります。これまでに太宰府少年の船に参加した子どもがジュニアリーダーズクラブの会員となり、子ども会活動への協力要請に応えることのできる青少年リーダーに成長するなど、各団体間の連携に強固なものがあります。

このように、各団体の活動が活性化することにより、おのずと連携が生まれてきております。これからも各団体が青少年の健全育成という大きな目標に向かって、活発な活動を継続させられるよう支援してまいります。

次に、3項目めの本市は現在、4広場が活動しているが、今後、未来を担う子どもたちの心身の育成に最適な広場づくりを進めていく必要があると考えるが、市の見解を何うについてですが、現在活動している国分、つつじヶ丘、青葉台、太宰府南小の4つのアンビシャス広場については、地域の大人たちが見守る中、子どもたちの居場所づくりとして、それぞれの広場の特色を生かし、趣向を凝らした取組を行っています。その取組については、子どもたちの心身の成長に大きく貢献しているものと考えます。

昨今、核家族化が進み、SNSなどの普及もあり、子どもたちは地域の大人だけではなく、友達とのコミュニケーションも希薄になってきていることから、活動中の4つの広場のさらなる充実を図ることに併せて、新しい広場づくりにも取り組んでまいります。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） ご回答ありがとうございました。

社会教育等団体、関係団体が7団体あるということで、それぞれに活動されているわけですが、もう少し現状についてお尋ねしたいと思います。

第五次後期基本計画には、基本方針として、家庭、学校、地域との連携とともに、関係団体との協働、支援を図ることにより、地域や家庭の教育の向上に努め、より一層の社会教育の推進を目指すとあります。

関係団体に対する支援として、現在どんな団体にどんな支援をされているか、具体的な内容がありましたら教えていただきたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） これまで子ども会のメンバーを対象といたしますリーダー研修会や、保護者が参加いたします家庭教育学級など、市主催事業において各団体との連携を図ってまいりました。どの団体においても、取組への活力は、将来の市を背負っていく若者たちへの思いであり、メッセージと考えています。

市としましても、各団体がこれまで活動を継続してこられたことは大変な成果であり、これからも青少年を取り巻く様々な問題について、よりよい解決の発見へ導いてくれるものと考えております。これからも連携した取組を進めていくというふうにも考えております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 私は、この7団体の中で気がかりな団体があるんですが、実はその気がかりな団体といいますのは、太宰府市子ども会育成会連合会、これについてお尋ねをしたいと思います。

ご回答では、子ども会が40、数が40というふうにいただきましたけれども、本市には44行政区がありますが、少子・高齢化により子ども会そのものが存在しない地域もあろうかと思いますが、現在本市の連合会、すなわち市子連への加入数は40ですよね。40と、子ども会の加入率の高い順、これ上位から3団体ほど教えてほしいんですが。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 子ども会への加入率の高い順番としましては、今自治会ごとには把握しておりませんが、こちらのほうに手元にありますものでは、校区ごとで集計をしております。そちらの高い順にお伝えいたしますと、多い順に太宰府南小学校、太宰府小学校、国分小学校区の順になっております。

先ほど言われましたように、極端に低い校区もございます。地域による格差が、こちらの加入率のほうにも表れているという状況ではあります。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 実は、私の地元の青葉台の子ども会でもだんだんに加入率が低下をしまして、平成18年度は80%ぐらい加入していたんですけれども、現在140名の子どものうち

30名切っているんですね。加入率が20%と。年々低下する傾向にあるわけです。

こういった子ども会の加入率が低下している。これは青葉台だけじゃなくて、全行政区においてもそういう傾向があるんじゃないかというふうに思っております。その低下しております現象、こういったものを担当課としては加入率の低下の原因、どのように把握されていますか、お聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 加入率の低下の原因といたしましては、近年における少子化、人間関係の希薄化、親や子どもたちの習い事や学習塾など学校が休みの日の過ごし方に対する価値観の多様化などが影響しているものと考えております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） それと、ほかに社会教育関係団体として補導連絡協議会、それから太宰府市民の会、少年の船協会、ジュニアリーダーズなどがあるということでございますけれども、私もいろいろ見学はさせていただきまして、非常にいい活動をされているなというふうに十分承知しております。

それで、令和3年度の太宰府市教育施策要綱、この中に社会教育委員による地域子どもの日の実施拡大をするというふうなうたってあったんですが、この内容についてお聞かせいただければと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 社会教育委員がつくる社会教育委員の会では、公園で子どもたちが遊ぶ姿や笑い声を増やしたいとの思いから、地域子どもの日の活動を行ってあります。これまで市内全ての44区自治会にお声かけをさせていただき、約半数の自治会において取組にご賛同いただいているところであります。

現在ある活動を、組織を生かして、子どもたちが参加しやすい行事においてのぼり旗を設置していただき、地域子どもの日として地域に根づいていく活動として取り組んであります。

以上です。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） この地域子どもの日の活動は、年に1回ということでしょうか、実施は。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 地域子どもの日の取組は、先ほどお伝えしましたように、その地域で取り組みやすい事業に地域子どもの日という位置づけをしていただいて、子どもたちの参加を募っていただくというふうな形になりますので、それぞれの地域ごとに回数等はいろいろ様々であらうというふうに思っております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） アンビシャス活動と非常につながる部分がありますので、この辺は一



応整理をしながら、後ほど触れますけれども、アンビシャス活動の推進にお力添えいただければというふうに思っています。

今、社会教育委員とおっしゃいました。社会教育委員は、現在市内に何名いらっしゃって、普通はどんな活動をしているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 社会教育委員の定数につきましては、太宰府市社会教育委員に関する条例の第3条において、委員の定数は15人以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに識見を有する者の中から教育委員会が委嘱するとなっております。現在9名、男性4名、女性5名の委員体制で行っております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） ありがとうございます。

あともう一点、今年度の事業として放課後子ども教室を開設するというものであります。具体的な内容と、いつからスタートさせるのか、あるいはスタートをもう現在しているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 放課後子ども教室につきましては、昨年に太宰府西小学校をモデル校といたしまして開催を予定しておりました。昨今のコロナ禍でやむなく延期となりましたので、今年度改めて太宰府西小学校をモデル校として開催をすることで進めております。

本来は6月からする予定でしたが、今年度についてもまだコロナ禍ということで、7月14日から来年2月までの間、月に1回、第3水曜日、放課後の15時から17時を基本に開催する計画であります。対象は小学校の1年生から3年生といたしまして、参加費につきましては無料となっております。

学校運営協議会の委員でもあります地域コーディネーターの方に支援スタッフでの協力依頼をしております、今後も地域からの支援スタッフ募集をしていくことを検討しております。

また、今現在応募をされてありますお子さんが41名ということで、当初想定しておりました人数よりも少し多めで募集があっているということで、うれしく思っております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 内容はよく分かりました。期待しております。

次に、2項目めの社会教育関係団体の問題点と対策ということで、また掘り下げてちょっと質問させていただきたいと思うんですが、学校と地域と一体となったコミュニティ・スクール、これは中学校区を単位として開催されているようですけれども、既にもう小学校は7つあるということでしょうけれども、新たに中学校4か所が実際活動されているのか、この辺ちょっと分かりやすく説明をお願いしたいと思うんですが。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） コミュニティ・スクールにつきましては、現在市内の各小・中学校にお

いて、学校、地域、PTA、地域コーディネーターなどを中心として設置がされております。小学校7校、中学校4校、全校での設置となっております。

なお、今現在は、昨年に続きコロナ感染の防止のため、開催の延期等を余儀なくされてある状況でもございます。こちらのコロナ禍が収束いたしましたら、また活動が活発化できるんじゃないかというふうに思っております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 11校がコミュニティ・スクールの活動をされているということですが、これは地域の応援態勢といいますか、協力関係は順調にっていますでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 地域で活動されてあります自治会、また先ほどもお話が出ました地域コーディネーターの方、いろいろなバックアップをしていただきながら、地域全体で子どもたちの居場所づくりに取り組んでいただくような形で、今活動がされております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） このコミュニティ・スクールは、小学校あるいは中学校一緒にというよりも、小学校は小学校、中学校は中学校で、せっかくすばらしい取組でありますので、これ一堂に会してお互いその問題点を話し合う、そして参考になる点が出てくると思いますので、この辺は行政がリーダーシップといいますか、行司役でやっていただいて、さらに活性化を図っていただきたいと思いますが、この一堂に会しての意見交換、勉強会、こういったものをぜひ行政のほうで引っ張っていただきたいというふうに思っています。いかがでしょう。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 今ご提案いただきましたような形で全体の情報交換等ができれば、全体の活動の盛り上がりにつながっていくというふうに考えております。

また、今現在、市におきましては、学校運営協議会の地域コーディネーターの方の交流、情報交換の場づくりとして、年2回の全体研修会を実施しております。コミュニティ・スクールのメンバーの一員でもございますので、こういった情報交換の場から、また自分たちのコミュニティ・スクールのほうにそういった情報を持ち帰って、活動の活性化につなげていただけるんじゃないかというふうにも考えております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 先ほども子ども会の件についてお尋ねをしました。これ非常に気になっていまして、やはり加入率の低下、これが非常に懸案になっておるんですが、この件について、総合基本計画の成果指標として、平成21年度が72%から、その6年後、もう過去の話であります、平成27年度の目標値は加入率80%にするという目標を設定されております。

実際はどうだったのか、その結果をお聞かせいただきたいということと、現在の加入率、パーセント、これはどういうふうになっていますでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○**教育部長（藤井泰人）** 子ども会の加入率につきましては、先ほどからお話が出ておりますように、いろいろな事情から加入率がどんどん下がっているというふうな状況になっております。実際のところ、平成26年度の基準値63.1%となっております。平成32年度には目標値として72%というパーセントを掲げておりますが、令和元年度の数字がおよそ54%、令和2年度が52%、令和3年度につきましては約50%ということで、減少傾向が続いておるとい状況であります。

○**議長（陶山良尚議員）** 16番橋本健議員。

○**16番（橋本 健議員）** これはだんだん減ってきているわけなんですけれどもね。これは特別行政の責務とは申しません。これはいろいろな子ども会そのものの運営の在り方、毎年毎年役員さんが替わりますので、この辺の問題もあるでしょうし、なかなか加入率をアップさせるために非常にどうやったらいいのか頭が痛い問題であります。

ただし、行政として何か具体的なアイデアを持っておられるか、あるいはどのような対策を今後講じようとするのか、その見解をもしよかったらお聞かせいただきたいと思います。

○**議長（陶山良尚議員）** 教育部長。

○**教育部長（藤井泰人）** こちらの加入率増加につきまして取組というのは、非常に難しい問題ではなかろうかというふうには考えておりますが、やはり地域全体で子どもの安全・安心を確保していくというふうなことを考えますと、地域で取り組むこういう子ども会とかこういう活動というのは、非常に大切になろうかというふうに考えます。

そういった重要性を住民の方にも伝えながら取り組んでいただきたいということと、あと子ども会育成会のほうにつきましては、小学校の入学説明会の際に、加入に関する呼びかけチラシなどを作られて呼びかけをなされてあります。

また、モデル子ども会ということで、子どもたちの子どもたちによる子ども会活動というふうなテーマを掲げまして、そのテーマに沿った活動をされたところに対しては、資金の援助とか、また指導者の派遣など積極的な支援を今行っておるところです。

団体、また行政も一緒になって、こちらの子ども会の加入率の向上に向けて取り組む取組を続けていく必要があるかというふうに考えております。

○**議長（陶山良尚議員）** 16番橋本健議員。

○**16番（橋本 健議員）** 私が伺っておりますのは、加入率が非常に高いところは星ヶ丘、それから長浦台、これが大体9割、90%ですね。こういう行政区というか、こういう子ども会をひとつ見学していただいて、加入率の多いその理由とか、こういったものを調査していただいて、これをまた新たに違った加入率の低いところに何かフィードバックしていただければというふうに思っていますので、どうぞよろしく願いしておきます。

3項目のアンビシャス広場づくり推進についてお伺いをしたいと思います。

お手元の資料をご覧ください。概略を説明させていただきたいと思います。

この写真は、3年前の折り紙ヒコーキ大会太宰府地区予選会の様子です。これは4つの広場

の連携事業として、毎年7つの小学校の全児童に呼びかけ折り紙ヒコーキ大会を開催しております。今年で13回目になりますが、各小学校の体育館を持ち回りでお借りし、飛行距離と飛行時間を競う大会でありまして、毎年80名から100名の小学生が参加しております。いつも社会教育課の皆さん、特に社会教育係の皆さん、課長をはじめ教育係の皆さんには、会場予約や大会準備、そして大会当日までお手伝いをさせていただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在は、太宰府からの発信と国分アンビシャス広場代表のお力添えによりまして、福岡県内のアンビシャス広場に普及し、各市町村で予選会を開催し、距離10m、時間にして4秒、これをクリアした子どもたちは、太宰府市総合体育館とびうめアリーナで距離と時間の個人戦と、それから団体戦も競技に加え、アンビシャス広場対抗の福岡県主催の大会が開催されております。言わば会場はとびうめアリーナですけれども、これは折紙ヒコーキ大会の甲子園という位置づけで、今年もコロナ禍ではありましたが、3班に分け、密にならないよう時間をずらしながら、県大会としては第4回福岡県大会が実施されました。

日本折り紙ヒコーキ協会九州支部の先生に折り方の指導を請い、教えていただいて、A4判のコピー用紙を使って公平に距離用と時間用をその場で折って、そして練習をし、そして競技に移るわけですけれども、この大会が今年も11月6日土曜日でございますけれども、午前10時からとびうめアリーナで筑紫地区予選会を開催したいということでもあります。興味のある方は、ぜひ見学にお越しいただきたいというふうに思っております。

話は替わりますけれども、私の地元、青葉台アンビシャス広場では、つつじヶ丘アンビシャスさんと連携して、毎年太宰府西小3年生を対象に90分の授業に出前アンビシャスを実施しております。通常広場では、毎週金曜、土曜の午後3時から5時まで公民館に集い、ドッジボールやバドミントン、大縄跳び、こういった遊びで元気に遊び、室内では卓球やけん玉、おはじき、お手玉、皿回しなどの昔遊びを自由に楽しんでおります。また、月1回の押し花教室は大変人気がありまして、男女ともに作品作りに励んでいるところでございます。

これはひとえに地域の方々に協力を仰ぎまして、おかげさまで開設17年目を迎えましたが、子どもたちは外遊びが大好きです。毎週金曜、土曜の継続した活動による遊びの効果は計り知れないものがあり、協調性や社会性、そして思いやりが身につくなど、たくましく成長していきます。

質問に入ります。44行政区の中で公園や公民館広場がある自治会に、広場づくりの奨励をしていただきたいというふうに思っております。ご回答の中にもありましたように、広場づくりを進めていくというお答えをいただきました。ありがとうございます。まず、担当課で普及のために何を準備したらよいか、チームを編成し、候補先をピックアップしてアクションを起こしていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） これからアンビシャス広場を少しでも広げていきたいというふうなところ

ろで、今後状況を見ながら取組の具体的な進め方というのを考えていきたいというふうに思います。

また、このアンビシャス広場づくりの事業につきましては、子どもたちが地域の中で自由に集まり、年齢の違う友達と集団で遊んだり、地域の高齢者など大人との関わりにより様々な体験ができるような居場所づくりを考え、地域の人々の協力を得ながら、地域ぐるみで育てる基盤づくりを目指すものと考えております。

未来を担う子どもたちは、社会、また地域の宝でもあります。今後もアンビシャス広場づくりにつきましては、自治会とも協議を行いながら、体制づくりの検討を行ってまいりたいと考えております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） ありがとうございます。再度伺いますけれども、私も一緒になって応援したいというふうに思っておりますので、運営予算につきましては、自治会からも多少捻出させていただくということも可能ではないかというふうに思っております。こうやって動くことによって、啓蒙啓発を共にしていければなというふうに思っております。

アンビシャスという広場にこだわらず、子どもたちの居場所づくりというふうに考えていただいて、ここらは柔軟に、先ほど公園で子どもの元気な声が聞こえる、子どもの日を今拡大しているんだというお返事もありました。そういう形で子どもたちの元気な声が聞こえるような広場づくり、これをぜひ今検討していただきたいと思いますが、再度ご回答をお願いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 先ほどからいろいろな提案をいただきまして、どうもありがとうございます。今言われましたように、地域で子どもたちの居場所をつくって、そして大事な子どもたちを、これから立派な大人になるまでの成長を見ながら地域で育てていくというふうなことに、行政と、また地域と一緒にやって取り組んでいけたらいいかなというふうに思います。

これからもこの子どもの居場所づくりを中心とした取組というの続けていくつもりでございますので、地域の方、議員の皆様もご協力いただきながら協力していただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） 青葉台は平成16年4月に開設しましたので、1期生が28歳ぐらいになるんですね。結婚した子もいれば、社会人として今現在頑張っておりますが、また大学生になった子なんかは、5号線のレストラン街がありますので、ここでよくアルバイトをしまして、女の子も男の子も、ばったり会ったりします。とてもにこやかに応対してくれますし、当時は本当に楽しかったという言葉が発してくれます。広場での遊びはとても楽しかったと懐かしんでくれますし、私も子どもたちの成長と礼儀正しさに、非常に会えてこちらもうれしくなります。

ところで、現在はコロナ感染状況下の下、今広場はお休みにしておりますが、状況が落ち着きましたら広場訪問、ぜひ市の担当課の方も4つの広場の現状を見てみるということで、のぞいていただければと思いますが、いかがでしょう。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 団体の運営に当たりましては、悩み、課題を共有することは、ほかの何よりも必要であると考えます。そのために、市といたしましても補助金を交付するというだけでなく、運営についての手伝いや助言、アイデアの提案をさせていただくこともあります。また、必要に応じて現地へ出向き、課題の共有を行い、問題解決のための方法の検討を団体と一緒にやっていく必要があるというふうに思っております。

職員といたしましても、そのような経験を何度も積み重ねることにより、次の助言、アイデアへとつなぐことができるのではないかと考えております。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） ありがとうございます。社会教育関係団体、例えば子ども会やアンビシャス活動に限らず、行政の皆さんは各自治区、つまり行政区においてどういう取組が地域の皆さんに喜ばれ役に立っているのか、やはり現場に行ってください調査をし、そして整理していただいて、先ほど申し上げましたように、その中でよい取組、こういったものをフィードバックしていただきたい、各自治会にですね。こういうのが行政の仕事ではないかというふうに私は思っております。今後におきましてもより積極的な動きをしていただきまして、ぜひ活性化を図っていただきたいというふうに思います。

最後に市長にお尋ねしたいと思うんですが、アンビシャス広場に限らず、よく学び、よく遊びの寺子屋塾、こういったものも地域の居場所づくりが数多く市内に定着するということは、不登校やいじめの抑止、その効果は計り知れません。また、子育て支援世代の太宰府への移住・定住に寄与できますし、税収の期待もできていると思っています。

広場開所支援1か所当たり約20万円の5か所で100万円の予算を3年間継続していただいて、地域の居場所づくりにぜひ力を注いでいただきたいというふうに思っておりますが、市長のご見解をお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 先ほど来、やり取りさせていただきましたように、市としましてもそうした地域の中で、学校以外の地域の取組の中で、そして不登校対策や様々な子どもの育成につながるということはもちろん意義を認めておりますし、認識をしております。そうした中で財政的にどのような支援ができるか、また人的に支援ができるか、そうしたサポートの仕方はいろいろあると思いますけれども、可能な限りそうした活動をサポートできるように努力してまいります。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員。

○16番（橋本 健議員） ぜひよろしく願いいたします。期待しております。

アンビシャス運動は、心身ともにたくましい青少年を育てようという県民運動であります  
が、子どもは国の宝であり、地域の宝でもあります。未来を担う子どもたちを立派に育て、社  
会に送り出すことは、我々大人の責任だと確信をいたしております。どうか広場づくりに力を  
注いでいただきますことを心からお願いし、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（陶山良尚議員） 16番橋本健議員の一般質問は終わりました。

ここで10時50分まで休憩します。

休憩 午前10時41分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午前10時50分

○議長（陶山良尚議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

藤井雅之議員から一般質問の資料配付の申出がありましたので、許可をし、机上に配付いた
しておりますので、お知らせいたします。

14番藤井雅之議員の一般質問を許可します。

〔14番 藤井雅之議員 登壇〕

○14番（藤井雅之議員） 議長から質問の許可をいただきましたので、通告書記載の2点につい
て質問いたします。

まず、市の上踏切周辺の今後についてお伺いいたします。

J R鹿児島本線の都府楼南駅と二日市駅間にあります市の上踏切は、多くの車両や二輪
車が行き交う踏切で、水城西小、学院院中の通学路でもあります。利用者も多く、大変な混雑
が発生する中で、幅員が3.9mと狭く、車両の離合も困難で、歩行者にとっても危険な踏切で
した。

これまで私も市議会場で改善を求め質問してきましたし、都府楼南に在住されました岡部
茂夫元議員、清水章一元議員の諸先輩も同様の質問されてきており、長年の懸案でもありまし
た。

平成26年度から交通量調査が始まり、平成28年度には国土交通省から踏切道路改良促進法に
基づく改良を実施すべき踏切道に指定されたことから、国の社会資本整備総合交付金を財源に
改善事業が進められ、令和2年度末に完成し、4月3日には拡幅竣工記念式が行われ、私も参
加をさせていただきました。

工事後は全体の幅が9mに広がり、歩道も設けられ、車両の離合も可能になりました。

市長は今定例会初日の冒頭挨拶で、事業の完了を報告され、関係者に改めて感謝を述べられ
た後に、今後も地元の課題解決に着実に取り組んでまいりますと述べられております。

そこで、2点お伺いいたします。

まず、踏切周辺の交通体系の整備についてです。

踏切自体は改善をされましたが、筑紫野市の塔の原側から踏切を渡ったときに、太宰府側の

道路が狭く、離合が難しい状況です。道路の拡幅が難しい状況で、車両の流れを一方通行にするなどの改善が必要と思いますが、見解をお聞かせください。

次に、市民の方から、降雨後に水たまりができて、引くのにかかる。歩道の入り口部分のため、一度車道側に出て歩かないといけなく危険だと連絡をいただきました。

本日、議長のご許可をいただき配付している写真は、5月24日、前夜から降っていた雨が上がり、時間が少したった16時頃に現地に行き確認したものです。

市は、この状況を把握されていますでしょうか。早急に改善が必要と思いますが、現状の認識をお聞かせください。

次に、避難所の在り方についてお伺いいたします。

昨年も大雨や台風などで、太宰府市内でも避難所が開設をされました。その中の一つでありますとびうめアリーナ総合体育館は、今新型コロナウイルスワクチンの接種会場になっています。同施設の避難所としての収容人数は大きく、代替の避難所を設けることは困難だと予想されますが、これからの大雨や台風などの災害時、同施設の避難所運営をどのように行う考えか、また市民への周知策についても回答を求めます。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 1件目の市の上踏切周辺の今後についてご回答いたします。

まず、踏切周辺の交通体系の整備についてですが、議員ご存じのように、踏切だけでなく周辺道路の改良も併せて行うことで、車両の通行をスムーズにすることをこれまで行ってまいりました。

今回ご指摘の箇所につきましては、道路拡幅以外にも安全で円滑な通行を確保するために、議員のご指摘のとおり一方通行などの交通規制を行うことも有効な措置の一つとして考えられますので、迂回路や周辺道路に与える交通障害の有無等の交通実態や朝夕の混雑状況、児童・生徒の通学状況を確認しながら、まずは地元自治会の意向を確認の上、筑紫野警察署と協議をしながら、より安全な交通体系を検討してまいりたいと考えております。

次に、降雨後の水たまりについてでございますが、議員のご指摘のとおり、踏切の拡幅工事完了後に、歩道部分の一部におきまして水たまりが発生している状況でありました。工事を施工されましたJR九州のほうに連絡を取りまして、JR九州及び地元自治会役員の皆様も一緒に現地立会いを行い、その後JR九州で水たまり部分の仮補修工事を行っていただきました。現在の状況は仮補修でありますので、今後JR九州におきまして当該箇所の本格的な補修工事が施工される予定となっております。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） ありがとうございます。まず、周辺の交通体系のところについてお伺いをしたいんですけども、これ踏切の拡幅前から私、議会で一方通行化という部分も併せて過去にも提案させていただいた経過があるんですけども、やはり当時でも通学路で危険な状態の中でということもあったんですけども、この踏切が拡幅が今回終わって、やはり周辺

の方からお話を聞きますと、交通量は間違いなく増えていますというようなこと、交通量が増えたような感じがしますということをおっしゃいました。お一人の方だけじゃなくて、複数の方にあの周辺の方にもお聞きしたら、口をそろえて交通量が増えているというのは言われております。

それで、いろいろ原因はあると思うんですね、要因は。踏切の拡幅が終わったから離合もしやすくなったというようなところもあるでしょうし、筑紫野市のところに大型の家具屋さんといいますか、商業施設ができた関係で、ちょうど抜け道といいますか、裏から入るには市の上踏切を通っていくというのも1つ、渋滞に巻き込まれないで裏の駐車場に行く一つの道筋になっていたりもしますので、今まで地元の方が使っていた以外にも交通量というのが増える要因が多々あるなというふうに思ったんですけども、日中だけではなく、朝の時間帯だけ、朝とか通学時間帯、朝とか夕方とかそういった部分の時間帯を絞ってでも、やはりそれは整理が必要なことなんじゃないかなというふうに思うんですけども、今拡幅が終わって、今後そういった調査をやっていかれる具体的な予定、時期等は、今担当課として考えておられますか。自治会サイドからの要望が上がってきたときに動いていきますというスタンスでしょうか。その辺の見解をお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 藤井議員のほうから以前から何度もこの踏切の拡幅及びこの周辺の交通体系の改善の件につきましてはご指摘をいただいておりますことは、重々承知をしております。

今回、令和2年度末に、ようやく長年の課題でありましたこの市の上踏切の拡幅と併せまして、太宰府側の一部道路の拡幅工事等も一定終わることができましたが、今回ご指摘いただきました都府楼団地内の狭隘な道路、道路名称は塔の原線なるんですけども、こちらにつきましては、まず地元要望は今現在のところは行われておりません。拡幅等の要望はありませんが、側溝の蓋かけにつきましては要望が上がっております。

こちらにつきましては、現在地元の方との調整に時間を要しておりますので、ちょっと現時点ではまだできておりませんが、今後ともそちらに向けて努力はしてまいりたいと思っております。

お尋ねの拡幅後の交通量調査等につきましては、先ほど言いました地元のご要望はまだあっておりますが、今後一方通行等のご提案もいただいております。今後、拡幅後の交通状況も見ながら、交通量調査も検討してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） よろしくお願いたします。私もこの場所の近くに住んでおりますので、日々感じるの、確かに踏切の拡幅と、若干見通しもよくなりましたので、踏切へのアクセスをする部分ですね。確かに車のスピードも以前よりは出ているなというのを感じるこ

が多々あるんです、日々過ごしているとですね。せっかく安全対策として踏切の拡幅の部分で工事を進められていただいたんですけれども、そのことがまた別の事故を誘発するようなことがあってはならないと思いますので、その点はぜひ引き続きの対応をお願いをしておきたいと思います。

それで、資料に提出をしております踏切の水たまりの部分ですね。若干ちょっとこれPDFで出力したものを提出しておりますので、写真が粗いところがあるかと思いますが、5月24日に撮影したとき、16時頃でこういう写真のような水たまりが引かない状況だったんですけれども、今先ほどの答弁で、仮の補修はされているということですが、まず根本的なところをお伺いしたいのは、こういったことが起こってしまったその原因というのは何があったんでしょうか。それについてはJR側なのか、それとも工事を施工したところなのか、発生した原因というのはつかんでおられますか。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 資料のご提供をすみません、どうもありがとうございました。

こちらの状況については、先ほど申し上げましたとおり、市のほうも工事完了後こういう状況であることを把握はしておりましたので、この原因ということでございますが、この拡幅工事自体はJR九州さんのほうでしていただいている工事になっておりますので、この原因ということになれば、JR九州さんのほうが依頼されていらっしゃる工事業者さんが施工のときに、こちらのほうの勾配の計算を若干ちょっと見誤ったのではないかなというところが原因ではないかなというふうに予想はされます。

こちらについては、本格的な工事を行ってこの水たまりを解消しなければいけないんですが、まずは現在通行されている歩行者の方々ができるだけ支障がないようにということで、仮補修を5月26日に、この写真を24日16時頃撮影していただいたということですが、5月26日に仮補修工事をJR九州さんのほうで行っていただいております、本格復旧工事につきましてもできるだけ早急ということで、こちらのほうから何度もJR九州さんのほうに要望をさせていただいている状況でございます。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） 仮補修の状況についても現地を確認しております。その後の部分は仮補修された後、雨が何回か降りましたが、ここまでの状況にはなっていないのを私も確認はしているんですけれども、今のその状況というのはあくまでも仮補修であって、恒常的なものではないわけですから、いずれまた、仮ということは、こういった元の状態に戻ってしまうんじゃないかなということも懸念してしまうんですけれども、梅雨どきでこれから雨もますます降ってきますし、今日からまた3日間ぐらい傘マークが天気予報ついていますけれども、その仮の補修の中で大体どれぐらいの期間、仮補修の今の状態で対応できるかというところまでは確認はされておられるんでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 現在仮補修ということで、こちらの写真の状況よりも若干といいますが、水たまりの状況は是正はされているということなのですが、それでもやはり歩行者の皆様の方にご迷惑をおかけしているということは、私たちも一日も早くこちらのほうが通行に支障がないようにしていただきたいという気持ちでいっぱいでございます。

そういう状況の中で、JR九州さんのほうに何度もうちの市のほうからもこの改善要望はさせていただいておりまして、現時点でございますが、7月、8月ぐらいまでには何とかというところでいただいておりますけれども、一日も早い工事の施工を再度市のほうからも要望はしているような状況でございます。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） すみません、7月、8月と今答弁言われたのは、それは仮補修の状態から改善というか、される見込みが7月か8月ということですか。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） はい、そのとおりでございます。本格復旧工事につきまして、7月、8月頃というところで今のところ予定をされているということで聞いております。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） 分かりました。7月、8月。仮にですけれども、その工事の期間というのは、じゃあそんなに長くはかからないと思っていいんですかね。具体的に通行に支障が出るとか、規制がかかるとか、そういうような大がかりなものではなくというふうに理解してよろしいですかね。

仮にそうだとしたら、大体その復旧工事にかかる期間というのは、今見込みでつかんでおられるんだしたら、具体的な日数等を教えてください。

○議長（陶山良尚議員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 工事の期間でございますが、現時点ではまだ詳細な工事の設計、概要、スケジュール等が出てきておりませんので、具体的な日数等は申し上げることはちょっと不可能でございますが、こちらの状況、今の現在の歩道部分の勾配等をつけ直すというところになってくるかと思っておりますので、しかしながら軌道敷の工事がなかなかやっぱこれは時間もかかるということで聞いております。普通の道路の歩道部分を直すのと、ちょっと若干やっぱ違うということで聞いておりますので、二、三日ぐらいはかかるのではないのかなというふうには想像はしております。

また、先ほどおっしゃられました歩行者への影響でございます。できるだけ影響がないようにというところで、JR九州さんのほうにはそういったところの視点を持って工事をしていただきたいということもご要望として伝えさせていただいております。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） 分かりました。一日も早く改善がされますように要望をしておきたい

と思います。

その上でなんですけれども、もうこれは中・長期の課題になるかなと思うんですけれども、改善後、またもしかしたら、数年の単位なのか分かりませんが、またこういった状態になるのではないかとということも心配もあつたりします。どうしても、先ほど勾配というような部分も言われましたけれども、地形上、どうしてもそういったことがいずれはまた発生してしまうというようになったときに、失礼ですけれども、高原部長が市役所をもう卒業された後にそういったことがあったときに、また担当課あるいは自治会サイドとの情報の共有といたしますが、できない状態で、またゼロから原因を調査してというようなことにならないように、今後も末永く担当課と自治会サイドが情報を共有して、問題が起きたときにはスムーズに動けるようにということ、これは中・長期というか、いつまでも続く課題であると思いますので、そういったところもきちんと持っていていただきながら対応していただきますように重ねて要望いたしまして、1件目の質問は終わらせていただきます。

○議長（陶山良尚議員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） 2件目の避難所の在り方についてご回答いたします。

とびうめアリーナの災害時の避難所として可否及び市民への周知についてですが、とびうめアリーナにつきましては、本市の防災拠点としての位置づけや、早期避難を促す自主避難所として広く市民に認知していただいていることから、ワクチン接種会場と重複しますが、避難所として開設することといたしました。

なお、1階をワクチン接種会場として利用しますが、2階アリーナや3階観覧席のほか、大規模な駐車場も兼ね備えており、車中泊での避難もできますことから、本来の避難者の受け入れ人数を補えるものと判断をしております。

避難所の運営につきましては、本市の新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアルに沿った感染防止対応を行ってまいります。

特に、今回はアリーナや観覧席を避難スペースとして活用することから、昨年度のコロナ対応予算で購入しておりますサーモグラフィーやパルスオキシメーターを有効に活用することで、さらなる感染防止対策の充実を図るとともに、ワンタッチテントなどを活用することで、授乳スペースの確保やプライバシー空間の確保などに努めてまいります。

また、避難者がワクチン接種会場と避難エリアを間違えることのないよう、誘導看板を設置するなどの対策を行ってまいります。

なお、気象情報や避難所開設情報につきましては、安全・安心メールやVネット、広報車での広報などのほか、本年度から導入いたしましたKBCテレビ局のdボタン情報を活用しまして、迅速かつ広く市民の皆様へ周知を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） ありがとうございます。昨日、小畠議員もこの部分を質問されてい

ますので、重複がないような形で幾つか再質問をさせていただきたいと思うんですけども、dボタンですね、私も早速見てきましたけれども、今度開設されるにしまだぐちのご案内とか早速されていて、あ、活用が始まっているなというのも認識したところだったんですけども、トップのところにも5月10日付の市長の挨拶が出てきて、2番目から最新の状況というを見たりしたんで、ここはもうちょっと時系列で分かりやすくしてもいいんじゃないかなとも思ったりしたんですけども、そこは広報部分に関しては通告しておりませんので、私の独り言と思って聞いていただければと思います。

その上でちょっと気になりましたのは、ワクチン接種の会場になっているということで、例えばワクチン接種が行われておりますね、日常。その時間帯に避難所を開設しないといけなくなったというような事態が起きたとき、そういった場合の連携策というのは、もう当然ワクチン接種の担当者というか、担当の班がありますので、その辺のところとの連携はきちんと取られているというふうに理解しておいてよろしいでしょうか。その辺のところのご説明をお願いします。

○議長（陶山良尚議員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） ワクチン接種があっている最中に、そういうふうな避難をしなければならぬとか、自主避難所を開設するとか、そういう事象がありました場合ですが、とびうめアリーナにつきましては、幸いなことに外側の大きな階段、メイン階段がございます。そちらのほうから上がっていただくような、先ほど申しあげました誘導看板等を設置しまして、人を立てましてそちらのほうへ誘導して、そちら側から2階、3階のほうに上がっていただく。

ただ、中には避難される方では、やっぱり体の不自由な方等もいらっしゃいますので、そのような方につきましては、やはり内部のエレベーターを使っていただくような形になりますので、そちらのほうも動線が重ならないような配置といたしますか、計画をいたしまして、2階、3階のほうに誘導させていただくというふうに考えております。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） それに併せて、もう一つそこで心配するのは、駐車場の問題ですね。ワクチン接種にも今公共交通機関の呼びかけ等はされておられますけれども、接種会場に車で来られる方も一定数おられると伺っておりますし、これからワクチン接種の対象年齢がどんどんどんどん下がっていけば、自家用車で接種会場に来られるという方もおられると思います。そういった状況のときに、結局避難所開設となったとき、駐車場の確保というか、すみ分けというか、そういったのも当然必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。

それで、今部長答弁で言われた体の不自由な方のケースの場合、避難所へ来られて遠い駐車場というわけにはいかないでしょうから、会場の近くの駐車場を一定数確保しないといけぬとか、そういった細かい課題がまだ出てきていると思うんですけども、そういったまず駐車場のすみ分けについてはどういうふうに考えておられるのか、答弁をお願いします。

○議長（陶山良尚議員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） 実際にどういった方が何人程度いらっしゃるかというのは、これまたなかなか想定しにくいところでございます。ただ、一定程度、より近いところにそういった方を誘導できるようなスペースは確保しておく必要があるのではないかと考えております。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員。

○14番（藤井雅之議員） その点はぜひ、今後も随時、当然これからもワクチン接種の対応の対策班との話し合いも進められるでしょうから、ぜひその辺は念頭に置いて進めていただきたいというふうに要望しておきます。

やはり市民の方への周知の部分も、避難所としても開設をしていますし、今答弁で言われたような部分も、昨日小島議員が取り上げられた広報のこともありますけれども、7月の広報等でも継続的に市民の方に周知をしていくという部分も必要なことではないかと思いますので、そういった点も、いざ災害が起こって避難所に行かないといけないうきに、市民のところ混乱が生じないような形で対応をしていただきますように重ねて要望いたしまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（陶山良尚議員） 14番藤井雅之議員の一般質問は終わりました。

ここで11時25分まで休憩いたします。

休憩 午前11時14分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午前11時25分

○議長（陶山良尚議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

15番門田直樹議員の一般質問を許可します。

〔15番 門田直樹議員 登壇〕

○15番（門田直樹議員） 通告に従い質問します。

新型コロナウイルスワクチン接種事業について伺います。

まず、現状について、医療従事者等への接種の進捗状況、年代別に予定する接種対象者の範囲と概数、本市における接種の優先順位をお聞かせください。

次に、接種体制とスケジュールですが、全体の実施期間の見込みと対象範囲ごとの予定期間について、集団接種会場でのレーン数の増減見込み、キャンセル分のワクチンの処分、集団接種以外に医療機関等で個別接種や巡回接種等を行うことについて、現時点でのお考えをお示しください。

また、市民への情報提供については、市の広報、ウェブ、公営掲示板などで発信しておられますが、在宅療養中の方や介護を受けておられる方、様々な理由で外出が難しい方等への周知について、工夫があればお聞かせください。

最後に、接種の予約について、トラブルや苦情の件数と概要、機器の操作が困難な方への対応、電話が通じない等で来庁される方々への対応について伺います。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 新型コロナウイルスワクチン接種事業についてご回答申し上げます。

まず、1項目めの接種対象者についてですが、最初に医療従事者への接種の進捗状況についてご回答いたします。

医療従事者等への接種は、県が所管しております。5月中旬頃までに基本型病院、福岡徳洲会病院、済生会二日市病院、福岡大学筑紫病院の医療従事者への接種が終了し、その後、各医療機関での自院接種や集団接種が行われております。6月20日の週には、医療従事者等への接種が完了する予定でございます。

次に、年代別に予定する接種対象者の範囲と概数、接種順位についてですが、接種対象者としましては、当初16歳以上の全ての方が対象となっており、本市の対象者数は約6万1,000人ですが、5月31日付で厚生労働省から示されました新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引3版によりますと、ファイザー社のワクチンについては、接種を受ける日に当該市町村に居住する12歳以上の者が対象と明記されましたので、対象となる人口は12歳から15歳までの約3,000人を加えますと、6万4,000人となります。

次に、接種の優先順位としましては、基本的には国が示す優先順位に従って接種を進めております。1位が医療従事者等ですが、県が集約されていることと、市外の方でも医療機関ごとに接種が行われますので、太宰府市にお住まいの医療従事者の人数については、市のほうでは把握できておりません。

優先順位の2位は65歳以上の高齢者で、約2万1,000人。3位は基礎疾患をお持ちの64歳以下の方で、人口の約8%と言われておりますので、5,000人程度。同じく優先順位の3位としまして、高齢者施設等の従事者約1,000人。最後に第4位としまして、先ほど申し上げました12歳から64歳の方約3万7,000人が接種を受けるようになります。

次に、2項目めの接種体制とスケジュールについてですが、実施期間として国が示しているのは、令和4年2月末までとなっております。先ほど説明いたしました優先順位に従いまして、順次進めてまいります。したがって、まずは65歳以上の次の基礎疾患の方の事前申請を受け付ける方向で、今検討しているところでございます。

次に、集団接種会場でのレーン数の見込みとしましては、高齢者の接種を開始しました5月18日から5月末までは、1会場ごとに交互に接種を行い、1会場2レーンから4レーンまで増やしてまいりました。6月2週目からは、両会場並行して接種を行い、各3レーン、計6レーンで実施しております。6月4週目からは、各会場5レーン、計10レーンとなる予定でございます。それに伴い、平日は1日4時間で600人、土日は1日8時間で1,200人まで増える予定です。

次に、キャンセル分のワクチンについてですが、福岡県の余剰ワクチン有効活用指針に基づきまして、接種会場の従事者、新型コロナウイルス対策業務に従事する職員等に接種し、廃棄なしの対応を行っております。

また、個別接種や巡回接種等につきましては、市民の皆様のことを思いますとぜひとも願っていたところでありますので、近隣5市共同で、今後も引き続き筑紫医師会に対し強く要望をしてまいります。

次に、3項目めの市民への情報提供についてですが、広報や市のホームページなどを通じての情報提供はもちろんのこと、毎月隣組回覧用のチラシを作成し、新しい情報をお伝えするようになっています。

また、4月16日から新たに運用を開始しておりますKBC九州朝日放送のデータ放送を活用しましたdボタン広報誌においても、新型コロナウイルスワクチン接種情報を配信しております。昨年から考えてきたことではありますが、ほとんどのご家庭にはテレビがありますことから、ご指摘の皆様にも周知が可能と考えております。

次に、4項目めの接種の予約についてですが、まずトラブルや苦情の件数と概要についてですが、5月中のコールセンターのお問合せは約1,500件でございました。内訳としましては、接種スケジュールについてのお問合せが35%程度、予約方法についてのお問合せが27%程度、その他のお問合せが38%程度となっております。また、市へのメール等で直接いただいたお問合せにつきましては、4月から5月までの間に約60件程度となっております。

また、機器の操作が困難な方への対応についてですが、市から自治会長、民生委員・児童委員の皆様をお願いして、予約方法の周知や、地域の中で予約ができずに困っておられる方に対してサポートをしていただいております。

また、小・中学校での取組として、市長から児童・生徒に対しまして、ご家族に高齢者がいる方や近所の高齢者に対して、予約に困っていたらスマートフォン等での予約を手伝ってほしいというお願いの文書を出しまして、身近なところから高齢者をサポートできるような取組を行っております。

さらに、電話が通じない、予約方法が分からない等で来庁された方に対しては、予約専用のパソコンを設置しまして、職員が予約の支援を行っております。

さらに、5月29日土曜日、30日日曜日、6月5日土曜日、6日日曜日には、市役所に予約専用のパソコンと職員を配置しまして、大学生ボランティアにもご協力いただきながら予約の支援を行ったところでございます。

こうした取組は、全国放送も含めて好事例として複数取り上げていただいたところでございます。

以上です。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） ご回答ありがとうございます。時々刻々いろいろな状況は変わりますが、まず今いただいたご回答を基に、ちょっと全般的に幾つかまずは聞かせてください。

まず、報道等によりますと、国は7月4日までに全市町村へワクチンを渡すということですが



が、太宰府市は、まだ7月4日で先があるんですけども、大体高齢者分についてのワクチンはもう既に受領済みなのか、どうでしょう。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 今のところ既に届いておりますのは、ワクチンは17箱届いております。これが195バイアル入っております、これを一応それから5回分取れるという想定で計算をしますと、延べで1万6,500ぐらいの回数分は既に入ってきております。その次の6月の中旬の週ぐらいで、もうあと10箱ほど入る予定のところになっております。まだ到着はしておりませんので。そこまで入れますと、延べで約3万回程度。途中から1バイアルから6回取れるシリンジというんですかね、それを配布していただきましたので、もう既に6月3日ぐらいからの接種のほうでは、1バイアルから6回取るという形で今接種を行っております。十分な量が一応供給できていると思っております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） ありがとうございます。

ところで、接種は希望ということですが、その希望者の割合といいますか、逆に言うと、いや、自分はもう受けないと言われる方は一定数おられるようですが、大体のところどれぐらいおられるようですか。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 今のところ、65歳以上の方にはもう全て6月4日までに接種券をお送りしております。それで、予約につきましては、そのうちのおおむね8割ぐらいはもう既に予約をいただいております。ですので、あと、一応今回の接種は任意ということになっておりますので、ご本人の意思として受けない方、もしくは例えば在宅療養とかをされている方で、集団接種会場に来れない方というもおられると思いますので、そういう方に対しては、今後また医師会等と調整をしながら対策を取っていくことになると思います。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 今度、大規模接種に太宰府も入ったようですから、その辺と重ならんように、なかなかチェックが難しい面もあるようですが。

ところで、いわゆるワクチンが入手できて、会場を準備しても、打ち手がなかなかというふうなことを全国的に聞いておりますが、予定のレーンも増やしていくということで、大体1レーンが5人、お医者さん、看護師さん等々ですね。その辺の内訳、その予定はもう内々確保はできているということでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 筑紫医師会のほうと5市共同で、そのあたりの人員体制のこととかにつきましても共有をずっと行わせていただいております。

予診については医師の方ですね。接種は看護師の方が主にやっております。筑紫医師会さんのほうで動かれまして、歯科医師の方も研修をした後に接種のほうに入るとい

とになっておりますので、太宰府市のほうでも既に歯科医師の方々が接種されておられるようなところもございます。

あと、接種後の経過観察ということで、15分ないし30分待機をしていただくんですが、そこに看護師さんが配置をされていますので、1レーンに対して医師1名、接種の看護師さん1名、あと待機の方、医療関係者としてはそういう人数になりますけれども、あとそれで、その中でレーン数をどれだけ増やしていくかと、そこでまた体制が変わってくるというふうになると思います。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 優先の順位というのは国が示しているところで、大体どこもそういうことでございますけれども、例えば福岡市なんかは教職員など、ちょっと独自の順番も決めているような、余力があるのかどうか、その辺はよく分かりませんが、本市はその辺はないわけで、例えば年齢を区切って65歳以上の自治会長であるとか民生委員さんであるとか、いわゆる多数と接する機会が多いような民間の方ですね、その辺はどうなのか。特に、先ほどご回答いただいたのがもう全てなのか、その辺はどうなのでしょう。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） まず、自治会長と民生委員・児童委員の方でございますが、65歳以上の自治会長さん及び民生委員・児童委員さんにつきましては、接種の開始のときに、まず高齢者の方と多く接するそういうお役目であるということで、優先といたしますか、そういう形で自治会長さんと民生委員さんには接種をしていただきました。ご希望の方ということで、それぞれの会場で接種をしていただいております。

あと、市独自の優先枠ということでございますが、ここに関しましては、まずは高齢者の接種を早く完了させるというのがまずは第一義でございますので、あと高齢者と接する業務の方、それから市のほうで、例えば他市では保育士とか教職員とかの優先接種枠を設けていらっしゃる場所もありますので、そこはまだ本市としてはまだ検討の段階ということになりますので、まだ今のところそこははっきりはしておりません。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 分かりました。

ここからはちょっと大体というか、県が本来のところこういうふうな情報というのは管理しとるところでしょうけれども、本市でこの累計で、昨日の累計で425名、判明とか報告とか公表とかされてあるんですが、これがどんどん積み重なっていつているんですね。寛解と申しますか、治られた方もたくさんおられると思うんですが、その辺はやっぱり自治体では難しいかな。

簡単に言いますと、亡くなられた方が中にはおられると思うんですね。あるいは回復された方、闘病中の方、またなかなか入院を希望するも、空かないで自宅待機をやむなくされてある方とか、そういうデータというのは自治体のほうでは分かるんですかね。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 議員ご質問のそのデータということに関しましては、県のほうから市に対して提供いただく情報は、もうホームページに掲載してある情報とほぼ同じでございます。ですので、いわゆるよくなって例えば退院された方とか、残念ながら亡くなられた方とかという数字に関しましては、大変申し訳ございませんが、ちょっと市のほうでは把握しておりません。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 仕組みの問題というのもあるんですけれども、例えば今ホームページのお話がありましたけれども、こういう統計はホームページの中から拾っとるんですが、この中で例えば職業、職業はどこまで要るのかなというのは議論があると思うんですけれども、職業は調査中というのがありますよね。調査中をちょっと家を出る前にざっと計算してみると、去年の8月から39名おられる、調査中。それと記載がもともとない分を含めてですね。

去年の8月から1年近くなくなってきて調査中も、実際はしてないとは思うんですよ。そんなものもそろそろ整理をしていかれたほうがいいのか。しかし、県が出すデータですから、それを出すということではあるんでしょうけれども。

ところで、今度はちょっと接種会場の話ですけれども、いろいろ報道等でいろいろな事故と言うまでもない、ミスですね。貴重なワクチンを廃棄したりせざるを得ないこと、管理のミスであるとか希釈のミスであるとか等々ございますけれども、先ほどの会場には、うちの特別対策班ですね、各課からの応援も入れて気合を入れてやっておられるということで、そのときの役割分担とか責任とかですね。その管理、温度管理からいろいろな管理、それから希釈の問題から、先ほどの何本取れるかとか、いろいろ変わってきていますよね。その辺のことは、基本は医師会さんとか医療のほうは、もうそっち側でお任せして、ここからここというのは、もう明確な線引きがやっぱりあるんですかね。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 会場運営の現状で申しますと、先ほどおっしゃられた薬液の管理は、ディープフリーザーという冷凍庫に保管して、そこからその日の必要な数を出して、次の冷蔵庫に入れるという作業があるんですけれども、そこに関しては市のほうで行っております。主に保健師、それからワクチン応援班のほうで協力しながらという形で、数を間違えないように、そこをしっかりと互いに、また薬剤師さんが希釈に協力していただいておりますので、薬剤師さん方とも確認をしながら行っております。

それからあと、会場責任者という役割があるんですけれども、これに関しては手引等で行政の職員がすることというふうになっておりますので、会場責任者に関しましては、市の管理職が各会場1名必ず配置するという形にしております。

あと、応援職員に関しましては、希釈した注射針に入ったワクチン、それを薬剤師さんがその作業をされました後、各接種ブースに運ぶというその役目を、今職員のほうでやっております。

す。

以上です。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） ありがとうございます。いろいろな体制、とにかく全力でやるしかないの、いろいろな体制はあると思うんですけども、非正規職員の件もちょっとお伺いしようと思ったら、昨日徳永議員のほうから詳しく説明があったので、一つの意見として、やはり同一労働同一賃金と言うけれども、こういうふうな責任においても、災害とかこういうふうなワクチンの接種等々につきましても、やはり感染の可能性もあるわけですよ。そういうふうな中で、やっぱり正規と非正規というのがうまく使われるというのも少しおかしいところもあるので、今度補正にも幾らかそういうふうな部分も計上しておられるようですけども、やはりきちんとした仕事に見合った、危険度というかな、責任に応じた対応をお願いしたいとは思っております。

大体今、回答いただいた分に関してはそういうことですが、最後に予算って今言いましたが、補正について総務部長にちょっと聞きたいんですけども、物すごくアバウトな言い方をすれば、市長も何億円、何億円って大分いろいろ報道でも言っておられますけれども、基本、これは国、県のお金ですよ。ですよ。最終日の提案予定の中には、基金あたりからの繰入れが若干あるみたいだけれども、要は国が必要なこととして10分の10で交付するものを、各自自治体の裁量はあるけれども、それをただやっている。やらねばいかんからやるんですよ。うちが特別にやっとなわけじゃないし、どこの自治体もそういうふうにして、この国難と言えるコロナに対して立ち向かっているという、そういう認識ですが、どうでしょうか。

○議長（陶山良尚議員） 総務部理事。

○総務部理事（五味俊太郎） すみません、私から答弁をさせていただきます。

ワクチン接種事業そのものについては、国の100%補助ということで、負担金という接種した人数に対する単価と、それで合わない分を補助事業という形で、さらに7月末に前倒しということで、追加の費用がかかるならそれもということで、今回補正で上げさせていただく予定になっております。

他方で、無制限に何してもいいということでは当然ないので、一部当然補助対象外というものがありますので、まさに本市では独自にやっている交通支援ですね。実はこれも細かいんですけども、シャトルバスは対象になるけれども、無料券とかタクシー券は対象にならないとか、そういったものもある中で、まさに市民の方たちにいかに受けていただけるか、安心して来ていただけるか、まさに3つのスムーズという中で、追加で市が負担している部分もありますので、当然国策ですし、国難に対して行うものではありませんが、その中で市としてより市民に寄り添った形で対応するというので考えて、予算もそれぞれ計上をしておりますので、そういうことでご理解をいただければと思います。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） そこもいろいろな工夫をしておられることと思います。

ところで、この前5月25日、市長の記者会見がありまして、私も直接は見てないんですが、後々いろいろな資料を見させていただきました。そのことについて、少し時間がたっておりますけれども、幾つかちょっと確認というか、ご見解を伺いたいと思っておりますが、まず冒頭、ざっと見ますと減少という言葉が結構な数出てくるんですよ。減少傾向も見えてきた、減少傾向であったところから、減少、減少という、捉え方だなという感じはするし、またやはり安心をしていただくというふうなお気持ちがあるのかもしれないけれども、ただざっと見ても、これ5月25日に発表されていますが、5月は10日、14日、16日ですか、14人、15人、15人って、いわゆるクラスターの関係だと思うんですが、ここは突出しておるんですよ。あとはそう、大体上がったりがったり下がったりであるけれども、ただ25日であれば24日のデータはご存じのはずですが、前日が1人に対して7人、7倍になつてくるんですよ。決してこれを見る限り、そんな減少しているというふうには捉えられないんだけど、やはり全体として、最近では確かに減少してきていますけれどもね。その25日の時点で、グラフを見る限り減少というふうには思えないんだけど、何かどういうふうなお考えか、ちょっと聞かせてください。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

（15番門田直樹議員「簡潔にお願いします」と呼ぶ）

○市長（楠田大蔵） すみません、いろいろとしゃべりたいことがあったんですけども、後ほど、じゃあ。

減少と、ちょっと私もすみません、本当に記憶が定かじゃないところがあるんですけども、決していたずらに、減っているからもう大丈夫ですということは決してありませんで、データに基づいてそのときも説明したと思うんですが、ただ一時期、クラスターも非常に複数出ていましたし、過去最高の人数を更新していた、そういうときからすると、少し落ち着いたということを申し上げたかもしれませんが、決していづれにしてもいたずらにそういう誘導をしようということではなかったつもりです。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） またその中で、変異株の影響もあるかもしれないということをおっしゃっておられますけれども、具体的に変異株がどれぐらいの割合であるとか、そういうふうなことは今聞くことはできますかね。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） どこかで長く答えさせていただきたいんですけども、いづれにしても先ほど部長からも申し上げましたが、なかなか本市に情報が来ないんです。変異株がどれだけいるかも全く分かりません。本当に全く分かりません。しかし、結果として若い人が非常に増えてきた、20代以下で6割とか、50代以下でも8割という数は分析として分かってきましたので、そうした中で、恐らく若い人が増えてきたということで、変異株の影響もあるのだろうと、そのような言い方をしたところです。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） あと、何もあら探ししとるんじゃないくて、ちょっと考え方とか状況を少し知りたいから聞いとるんですが、このワクチン接種について、太宰府モデルということを書いてあって、いろいろこういうふうなパワーポイントですかね、いろいろ配布物にも結構な宣伝というかあれで、どういったものかなということで見たんですが、まず3つあるようですね。総力戦で早期接種、2が手厚い移動支援で、3つ目が予約の混乱回避ということですか。

ところで、これも言葉としては大体そういうふうなことで説明されてあるんですけども、まず総力戦で早期接種ということで、薬剤師がワクチンの希釈作業をしているからということですが、これって別にうち独自なんでしょうかね。薬剤師のお仕事として。それとか、歯科医師の支援も検討ということで、これは先ほどの部長のほうからお答えありましたので、ああ、そういうふうな形で進んでいるかなということですが、これに関しても、これはこういうのって大体うちに限らんけれども、独自でやるものなのか、それとも国がもう少し何か方向をしていただけるのか。具体的にどうなのかというのがよく分からんもんで。

あるいはもう少し言いますと、医師会に入っておられない先生方がどうなのかですね。歯医者さんたちも、なら皆さん全員がいいよということなのか、その辺の情報を、簡潔でいいですからちょっと聞かせてください。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 薬剤師会のご協力につきましては、通常、他市の場合は希釈作業は看護師さんがやっていたらしゃるようです。薬剤師会のほうが医師会のほうに、どちらからご協力を申し出られたかは、すみません、ちょっとはつきりは記憶しておりませんが、薬剤師会としてワクチン接種に協力ということで、筑紫地区の場合は、各市5市ともですけれども、薬剤師会の方が希釈作業のほうはやっていただいております。

あと、歯科医師に関しましては、先ほど申し上げたとおり、研修の後に接種に携わっていただくということでやっていただいております。

それと、すみません、もう一つありましたですね。

○議長（陶山良尚議員） 医師会。

○健康福祉部長（田中 縁） すみません。非医師会の方につきましては、制度上、ワクチンの供給を受けるという登録システムがありますので、それに登録をされればできることにはなりません。

ただ、どういう形で接種をされるかというのは、逆に医師会に入っておられない先生方に関しましては、私どもではあまり関わりがありませんので、ちょっとその辺ははつきりはしておりません。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 薬剤師の方々が希釈作業をしていただけるというのは5市ということで、本市に限ったわけじゃないということですが、それと医師会に入っておられない先生方

ですね。医師会さんとそういうふうな協力しながら進めていることもあって、いろいろな事情もあるのかもしれないけれども、しかしながらここで打っている総力戦でということを行っているんだったら、5市、5人の市長さんがおられますよね。総力で医師会等と、いろいろな方面と調整、説得、相談、そういったことを何かやっておられますか。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） せっかくなんで、今までの思いのたけも全て含めてちょっとお話ししたいんですけども、要は、私も昨日の舩越議員の質問のときに、半分ぐらいがワクチンの話で、本当は8割、9割、ワクチンの話で頭がいっぱいでありまして、非常に苦しい思いをしていますのが、先ほど来もありますように、市で決められることが非常に限られているんですね。情報も来ない、ワクチンも来ない。来ないというか、来るかどうか分からない。打ち手の方も、本当にその日来てもらえるかどうか本当に分からないんです。場所を間違えられたりしているケースも最近ありまして、いきいきととびうめを間違えて来られたり。そこで現場で右往左往したりしています。

そういうことも、職員だけでやれるんだったらもう間違いなくということと言えるんですけども、非常に外部的に依存していることが非常に多くて、コールセンターも、先ほど来ありますけれども、当然全国的にコールセンターを開設してやるというふうに国から指導されていたはずが、どこかの地域では予約を受け付けなくて、日を決めてやるということも、もともと国の指導に従っていたはずなのに、いつの間にかそっちのほうが好き例だと。我々も検討はしたんですけども、なかなか難しいんじゃないかということになりましたが、そういうことも含めて非常に頭の中で、今後も64歳以上の方の優先順位も決めていきたいんですけども、この予約の枠のいろいろなお医者さんの枠、10レーン以上増やせないとかそういうことの中で、こちらで勝手に決められない。そして、さっきの非医師会の方を呼びかけようとするれば、医師会の方の大変なご立腹を買ってしまう。こういうことも他市でもありますし。

そういうことも含めて、我々の手で行えることは非常に限られているけれども、市民の方は全部こちらにお叱りが来るという中で、職員も本当に頑張ってくれているんですけども、なかなか思うようにいかないということがあります。

そうした中で、それでもなお少しでも職員が頑張ってくれている中で、こんだけ我々も頑張っている、総力戦でやっているんだということを、誤解を解くというか、イメージ戦略もあると思いますので、そうした中で私なりにまとめてやってきたのが、予約の混乱回避とか、手厚い移動支援とか、総力戦で早期接種ということだったんですが、まとめて申しますと、今ホームページへも載せていますけれども、予約をやはりスムーズにしていこう、そして移動もスムーズにやっていこう、そして接種もスムーズにできるだけやっていこうと。そういう中で、薬剤師さんのお力も歯科医師会さんのお力もお借りする。これは医師会さんが基本的にはそうしたことをやっていたいただいています。

そして、5市で連携してということもありますけど、私としては5市で連携と言いながらも、

市それぞれ違います、市民の意見もそれぞれ違うので、やっぱりやり方はそれぞれ独自性が私  
はあっていいものだと本当は思っています。ただ、今大野城市が筑紫地区の市長会の会長とい  
う立場ですので、大野城市が窓口になるということが決まりまして、そうしますと大野城市さ  
んに基本的にはお任せして、そして私が独自に医師会さんに掛け合うようなことは逆に混乱さ  
せるので、やめておいたほうがいいだろうと。5市の首長として連携しようということは、  
常々我々も申していますので、そうした体制は取ろうと考えてやっております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） ちょっとスピードアップして。

今回、質問そのものもちょっとどうしようかなと迷ったんですよ。特に現場が大変だとい  
うのは重々分かっております。総力を挙げて、皆さんがどれだけ本当に必死で頑張っておられる  
かというのは重々分かっております。

それはそれとして、そういうふうな状況を周りに、でも市民はやっぱりいろいろ知りたいわ  
けですよ。どう発信していくかということでもいろいろ聞いておるんですが、2番目の手厚い移  
動支援ということでちょっとざっと言いますと、まほろば号や西鉄バスへ無料利用券を交付。  
交付と言うけれども、利用される方全員へ交付って、確かに高齢者にクーポンと一緒に入れて  
いるから、全員にあれだけけれども、でもその方が全員利用されるという前提で送ったのかなと  
いうのも疑問があるのはある。

それから、タクシーの初乗り運賃の助成。それから、とびうめアリーナと都府楼駅の間に無  
料シャトルの運行ということも、この3つを上げて手厚い移動支援ということですが、簡単に  
言えばコミュニティバスが無料であるとか、タクシーの利用助成であるとか、あるいはシャト  
ルの臨時運行であるとか、平日休日の垣根の取っ払いであるとか、そういうふうなこととい  
うのは、うちだけがやるとるんですかね。よそはそんなことやってないのかな。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 近隣で申しますと、私が知る限りやっておられないと把握しています。

私がこのことを強くこだわりましたのが、やっぱり集団接種だけになったんです、筑紫地区  
は、5市共通で。残念ながらですけれども。私も個別接種をやってもらいたいと何度も申した  
んですが。そうしますと、会場が限られると。そこまで移動してもらわないといけないと。そ  
したら、せめて移動支援ぐらいはやらないと、もうこれは申し訳が立たないと。個別接種がで  
きなかつた責任も私にありますので。ですから、移動支援だけは何とかという思いで、複数、  
できるだけメニューを持ちたい。そういう中で、タクシーもバスも、そしてシャトルバスも  
ということで、この3つがそろっているところは、基本的にはそうないと思っています。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） ネットでこの項目でちょっと調べただけけれども、誰でもできるから  
やってみてください。熊本市は、65歳以上タクシー券2,000円自宅に郵送。八尾市は、無料シ  
ャトルバスの運行、要介護認定者等へのタクシーチケット。福山市、タクシー片道1,000円で



両方ですね。調布市は、タクシーチケット1,000円2枚。えびの市は、タクシー利用料金免除。各務原市は接種券の提示でコミュニティバスとタクシーと無料になると。この券じゃないんですよ。誰でも行くためにクーポンを持っているんですから、接種券を見せればただと。あとは富田林市、大牟田市、武雄市、栗原市、前橋市、もうその他幾らでもありますよ。調べてみてください。こういったことをもって独自というのには、ちょっとどうしても引っかかる。

3番目、予約の混乱回避ですが、この25日の会見の中では、当初若干混乱したが、もう問題は収まったというふうなことです、実はその後、これが5月24日の新聞の私が取っとる朝刊ですが、投稿がありまして、ご存じかな、太宰府市在住の88歳。ちょっとざっと読みますね。

ワクチン接種予約うんざり。自動車の免許も取ったことのないアナログ人間が、テーブルに置いた携帯電話ガラケーを前に、ワクチン接種予約受付開始の午前9時を待つ。番号を押す時間まで考慮し、一番乗りを狙った。だが、これが話し中。開始前に電話を入れた者がいたのだ。うんざりしてやめようかと何回も考えたが、これも経験と3時間半、数秒、3分、5分などの間隔で押し続けた。やっとながった電話口から、6月2日になりますかいいですかと言われた。通知書に書いてある接種日とは違い、疑問もあつたが、接種が目的だからと唯々諾々、先方様のご都合を賜ることにした。電話の長丁場にくたびれ、接種日の変更に戸惑い、ついテーブルを蹴って足を傷める。これを独り相撲というのだらうということで、何も現場ができてないとか、そういうことじゃないんですよ。こういうことがあるんですよ。あつて、恐らく今でもやっぱりいろいろあっていると思うんですよ。だから、あまり独自であるとかということ、これが独自なのかもしれません。

ちょっと先に進みたいのでまとめますと、結局この3点、今言ったこの3点に注力することで、確実に2回目の接種を、これは高齢者のことですね、7月までに終わると確信しているということですが、状況はどうでしょう。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 確信しているとはちょっと言っていないつもりなんですけれども。

（15番門田直樹議員「記者会見資料ではそうなっています」と呼ぶ）

○市長（楠田大蔵） 確信というか、目指したいと。

ただ、もう率直に申しますけれども、7月末の期限も国が勝手に言い出したことです、これはもうはっきり言わせてください。これは7月末に我々が決めようということをもととしていたわけではなくて。予約が7割程度に入る場合は、7月末に終わるとしていたんですけれども、結果としては8割超の方が予約されています。これは本当に、長くなって恐縮ですけども、やっぱり入院されている方とか、かかりつけが福岡市にある方で個別接種される方とか、もっとおられるかもしれない。あと、受けたくないという方もいろいろ話が出ていましたが、もっとおられるかもしれないと思っていましたが、8割以上の方が結果としては予約されました。これはもうありがたいことなんですけれども。

ただ、7割で7月末ということで一応報告はしていましたが、国から求められていましたから報告はしてはいたけれども、そこが増えてきた。

ただ一方で、今起きている現象は、やっぱり2回目は受けたくないとか、1回目いろいろな日程変更がある中で、予約の空きが少しずつ見えてきたとか。そして、64歳以降の方の今後のことも考えていくとか、そういうことで頭はいっぱいなんですけれども、そういうことを考えていくと、なかなか本当に65歳以上の方が7月末で完全に終わるかという、これは確信は、もし言ったとしたら訂正します。確信はできません。

やっぱり7月の後半しか受けられないと、1回目を、65歳以上の方でも。そういう方もやっぱりおられますので、6月に受けたいけれども、なかなかキャンセルする方がいないと。そういう方はコールセンターへ毎日かけてこられて、空いてないか、空いてないかと。そういう方もおられる状況ですので、確信しているとしたら訂正させていただきます。できるだけ早く終わらせたいということだけは思っております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 確かに私の周りにも7月の後半しか1回目が受けられないと。それから3週間ですよ。だから、7月に受けられるはずがない。

これはホームページにも載っていますよ。1、2、3を上げて、この3点に注力することで、市民の皆様方に通知が届いた時点で即予約ができ、確実に接種ができること、また確実に2回目の接種を7月までに終えることへとつながってまいると確信をいたしておりますと言っておられます。確認してください。

進みます。

こういうふうな中で、ワクチンの接種予約ですけれども、時間があれて、ちょっと少し割愛します。ワクチンの接種予約で、予約の状況等いろいろお聞きしたいところもあるんですが、まず自治会を、このプレスの中でもマスコミ対応の中でも自治会ということで、ある自治会、名前は出しませんが、ある自治会とその役員さんたちの名前も拡大すれば出てくるような形であったけれども、その自治会の、いわゆる予約の申込みですよ。予約の申込みのサポート。主にオンラインのことを念頭に置かれているんだろうと思うけれども、そういったのは全市的、44行政区があるんだけれども、大体全般的にそういうところしているのでしょうか。私の住んでいるところはそういうのを全然聞かないのですが、が1点。

もう一つが、小・中学生にもということで、これも大きく書いてある。自治会や大学、小・中学生にも協力依頼と言うが、小・中学生に関しては、先ほどのご回答の中でそういうふうなお話をしましたですけれども、お話だけなのか、それとも学校を通じて文書を配布しているのか。

もう駆け足でいきますけれども、そういうときに、大学生が市でやる分には大いにいいと思うんですよ。やはり地元の大学等、地域のボランティアをやってもらって、お互いにとっていいことで、ただ何かあったときには、市の職員もおるわけですよ。コンピューター関係とい

うのはフリーズすることもあれば、いろいろなことがありますよ。急にシステムやアプリケーションのアップデートを要求されたりしたら、分からんでしょう、どうしたらいいか。あるいは途中で切れたら、それがどこまでいったのか、手続が進んだのかの確認とか大変なんですよ。そう簡単に、簡単と言うたら失礼かもしれんけれども、あくまでもその中で、おじいちゃん、僕がするよとかと言うてお互いにやる分にはいいですよ。市が小・中学生にも協力依頼をするということを大きく大々的にマスコミに言うという、じゃあどれぐらいのサポートをしているって当然聞きますよ。でしょう。そういうことはどうでしょうか、小・中学生に関しては、ちょっとまとめて、簡単でいいですから。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） まず、自治会でございますが、自治会長及び民生委員の皆様にも市のほうから、予約のサポートについてご協力をお願いしますという文書を市長のお名前でお出しさせていただきました。各自治会で、例えば公民館に来ていただいて、役員さんの手持ちのスマホで予約のお手伝いをしていただくとか、そういう取組をされているところもおられます。写真を見られたのは、多分そういう場のことだったと思います。

それから、小・中学校でございますが、市長のお名前でも予約のサポート、手助けをぜひお願いしますという文書を配っていただいております。学校のほうでも、ある中学校で授業をしながら、タブレットを使ってというそういう実際にやりながらの授業をするということで、市の趣旨を分かっていたら協力していただくような形でやっていただいております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） さっきも言いましたけれども、できる子、できる環境、環境がすごくあるんですよ。そういった中で、できることはお願いですねというぐらいだったらいいけれども、何か仕組みとしてあるかのような話はどうかと思うので、ちょっと聞いてみました。進みます。

レーンについて、6月下旬には、レーンといいますか、いわゆる最大1,200人。今のでいくとそうなりますね。一番最初の公表されていたのが、それから比べると2,400人ぐらい、18%ぐらい増える計算になるみたいですね。このとおりにいけばいいんですが、そのレーンも最終的には10レーンまで持っていくということですが、もしその中で、事故じゃないけれども、アナフィラキシーショックとかで具合が悪くなったとかやっとなら、そのレーンから出て、まずそこに待機しておられる方に対してはまずどうなのか。その会場の中の医療関係者がやはり対応するのか、あるいは救急等をもうすぐ呼ぶのか。あるいは、レーンの中で実際にその接種の順番待ちとかをされてある方がそうなったときには、そのレーンの機能が止まるのかということがちょっと心配。誰が対応するのか。もちろんお医者さんも看護師さんもおられるから、恐らくはそこはされると思うけれども、そうするとそのレーンは止まりますよね。ほんならその方々のまた今度は再接種はどうなるのかとか、その辺ちょっとまとめてお答えください。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 救急対応につきましては、その会場に予診の先生の中に責任医師という方がおられますので、その方と、あと経過観察のときの看護師さん、その方たちで対応していただく。それから、医師の指示で救急車を呼ぶと、そういう体制も消防本部等とも整えておりますので、そういう場合があればすぐ救急車を呼ぶという体制になっております。そういう場合の動線についてもシミュレーションしております。

それから、レーンがもし止まった場合ですけれども、その場合はほかのレーンのほうに回っていただいてという形で、少し間隔が詰まってくるということはあると思いますが、実際にその日に来ていただいている方については接種を終了させるという方向で実施をしております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） 予定は予定で、何があるか分かりませんからね。

ところで、宇美町の話はもうご存じだと思います。あるいはトヨタ式の集団接種の活用とか、非常に合理的なやり方であり、特に宇美町はお医者さんが考案して、非常にうまくいっているようなことで、こういったことは研究ないしは何か、何とか取り入れたりできませんかね。ちょっと聞かせてください。

○議長（陶山良尚議員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（田中 縁） 報道等であっております接種される医師の方が動くというやり方だと思います。接種する方の保定は多分看護師さんがされるということだと思いますけれども、そこできちんと様子を見ながら確実にということができるとか、そのあたりもありますので、どちらかというところと安心・安全ということを考えますと、予診の先生にちゃんと診ていただいて、接種者の看護師の方が1対1で、大丈夫ですかとかというふうに聞きながら接種をすると、そういうどちらかというところと丁寧な接種のほうで、安心を確保しながらやっていくということを太宰府市としては一応やっていきたいというふうに思っております。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員。

○15番（門田直樹議員） もう少しいろいろな状況というところ、結果が一定効果があるということが確認されて、検討ということですかね。しかしながら非常に、いわゆるスピードだけでいったら、計算したら大体のところ1時間で15人ぐらいのところ、これが20人であるとかかなり、ある人に言わせると100人以上接種できるって、それはちょっと早過ぎだろうと思うんですが、しかしながらかなりやっぱり改善できると。こういうのがモデルじゃないかなと思うんですよ。いいです、ちょっと待って。

モデルというのは、あるいは、何か言葉たたきをしとるんじゃないんですけども、独自とかモデルとかというのは、やはり周りが評価するというところか。サービスでいうたら、私は素晴らしいサービスをしているなんて言うたらおかしいでしょう。僕は頭いいもんと言っている子どもと一緒にですよ。じゃなくて、それは第三者あるいは受ける人が判断するんですよ。と、私はそう思う。

時間もそろそろですから、今後まだまだこのコロナとの闘いというのは続きます。やはり市

民、国民みんな、もうどうなっているのかという情報は本当に知りたいと。ですから、加減乗除なく、ありのままを率直に伝えるように執行部にはお願いします。

終わります。

○議長（陶山良尚議員） 15番門田直樹議員の一般質問は終わりました。

ここで13時10分まで休憩いたします。

休憩 午後0時19分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午後1時10分

○議長（陶山良尚議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

7番入江寿議員の一般質問を許可します。

〔7番 入江寿議員 登壇〕

○7番（入江 寿議員） 議長より発言の許可をいただきましたので、通告しておりましたICT教育につきまして一般質問をさせていただきます。

ICT教育とは、ご存じのとおりパソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法です。このICT教育は、2013年6月に閣議決定された日本再興戦略の中で、1人1台の情報端末による教育の本格展開を目指す、またデジタル教材の開発や教員の指導力向上に関する取組を進めることが宣言されています。

ICT教育の目的の一つは、分かりやすい授業の実現です。児童・生徒たちの学力を育成するために、視覚や聴覚に訴えかけ、理解しやすい教育を施すことです。

もう一つは、21世紀型スキルへの対応です。従来の教育は、どれだけ多くの知識を暗記できるかに重きが置かれ、これにより児童・生徒の評価を行ってきました。今後は、知識や情報などはインターネットで簡単に手に入れることができます。これらの知識や情報をいかに選定し活用するのか、情報活用能力、創造力の育成に重きを置いて教育されるようになります。端的に言えば、教育の手法や児童・生徒への評価などが大きく転換されようとしているのです。

これらの目的を達成するために、先生から児童・生徒への一方的な授業ではなく、双方向型の授業に変えていかなければなりません。ICT教育は、それを助けるツールなのです。

太宰府市の小・中学校では、児童・生徒の1人1台のタブレットが貸与され、学校の授業の中でICT教育が実施されていると聞き及んでいます。

1点目の質問をします。太宰府市としてのタブレット端末の活用をどのように考えておられるのか、お伺いいたします。

2点目の質問をします。教員のICT教育の指導力を向上するためにどのような取組をされているのか、お伺いいたします。

3点目の質問をします。タブレットによるICT教育は、学校の授業のみで行われていると聞いています。新型コロナの感染により、太宰府市内にある中学校は休校となりました。また、大阪では新型コロナ感染により唐突に休校が決定され、翌日からインターネットを媒体と

し、タブレット端末によるICT教育の実施が指示され、各家庭から接続方法、操作方法の問合せなどが多く寄せられ、大混乱となったそうです。また、インターネット回線がない家庭の児童・生徒への対応が問題となったそうです。学校と各家庭をインターネットでつないだICT教育の取組をどのように展開されていくか、お伺いいたします。

また、インターネット回線がない家庭の児童・生徒の教育の場の提供をどのように考えておられるか、併せてお伺いします。

4点目の質問をします。いろいろな事情から学校に通学できない児童・生徒、学校を休みがちな児童・生徒や教室で学習することが苦手な児童・生徒を対象として、学校復帰に向けて支援するつばさ学級の児童・生徒のICT教育の現状及び取組についてお伺いいたします。

また、つばさ学級にも通学できない児童・生徒のICT教育の現状及び取組についてお伺いいたします。

5点目の質問をします。ICT教育の取組については、各市町村で大きなばらつきがあり、積極的に取り組んでいる市町村もあれば、端末機の導入もしていない市町村もあるようです。現在学んでいる児童・生徒の将来を考えた場合、ICT教育への転換は不可欠で、早急に取り組んでいかなければならない最重要課題です。太宰府市でICT教育を学んでよかった、太宰府市でのICT教育が今の自分の基礎であると学んでいる児童・生徒が言えるようにすべきだと思います。太宰府市は、ICT教育先進の市にならなければなりません。今後のICT教育の取組についてお伺いいたします。

以上、1件5点について質問いたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） ICT教育についてご回答いたします。

まず、1項目めのタブレット配付後の取組についてですが、文部科学省が定める学習指導要領では、予測困難な時代において持続可能な社会の担い手の育成を目指すとされています。そのために、実際の社会や生活で生きて働く知識や技能の育成、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成、学んだことを人生や社会に生かそうとする力の育成が必要とされており。

さらに、それらの育成のためには、児童・生徒一人一人が主体となり、クラスメートと協働しながら課題を解決していくような授業づくりが求められております。

本市はこれまでも、文部科学省が定めている教育活動の実現のため、研修会などを実施しながら、学校における授業改善を目指してまいりました。このたび配備された1人1台タブレットは、求められている授業づくりに大変有効に機能すると考えております。

例えば児童・生徒一人一人が主体となる手だてとして、個人の実態に応じた学習教材の提供が可能であることや、個人が疑問に思ったことをインターネットで検索することが可能になることなどがあります。またクラスメートと協働する手だてとして、授業支援ソフトを利用することで、個人の意見を一堂かつ瞬時に集約、整理して話し合うことや、グループで作成してい

る作品を一人一人が同時に編集することが可能となることなどがあります。

さらに、先日新型コロナウイルスワクチンの接種をスムーズにするための取組の一つとして、太宰府中学校において生徒が1人1台タブレット使ってネット予約の方法を体験し、身近なお年寄りのワクチン接種予約を手伝うようにする活動が行われました。

次に、2項目めの教員のICT教育指導力向上の取組についてですが、本市では教員のICT教育の指導力向上のために、各学校からICT担当教員を選出していただき、市主催の研修会を継続して実施しております。研修会では、1人1台タブレットの活用、授業を支援するソフトウェアの活用、オンラインの活用などを取り扱っております。

また、市の代表者による公開授業も行っており、さらに各学校で行われるICT活用についての研修会に、教育委員会の担当者や、市に3名配置しておりますICT支援員を派遣しています。

今後、市内小・中学校のICT活用の足並みをそろえるために、短・中期的な目標設定を行い、研修会や市教育委員会による学校支援を行ってまいります。

また、各学校において1人1台タブレットの活用が開始されましたが、児童・生徒や先生方のハードウェアやソフトウェアの操作が思うようにならないことがあるという報告があります。特に、導入初年度の本年度は、これらのトラブルに対応するICT支援員の増員を検討してまいります。

次に、3項目めの学校と各家庭をつないだICT教育の実施についてですが、児童・生徒用のタブレットにはオンラインソフトがインストールされておりますので、Wi-Fi環境があれば、場所を選ばずに接続し、交流することができます。

先月、児童・生徒用の個人タブレットが使えるようになりましたので、各学校で使い始めたところです。今後、各学校で授業における活用を始めるとともに、児童・生徒にオンラインソフトの使い方を教えていきます。インターネット回線がない家庭については、Wi-Fiルーターを貸し出す準備をしております。

次に、4項目めのつばさ学級の児童・生徒などへのICT教育の取組についてですが、つばさ学級にもWi-Fi環境を整えましたので、今後、例えば自分の学級や校内適応指導教室とオンラインでつないで、つばさ学級の児童・生徒が学校の様子を見ることができるようになります。つばさ学級の児童・生徒の希望に応じて、学校の友達と交流することもできるようになります。このことは、つばさ学級の児童・生徒が学校をより身近に感じることができる有効な手だてであると考えております。

また、つばさ学級に通級できない児童・生徒への支援といたしましては、家庭に個人タブレットを届けることで、不登校の児童・生徒が家庭からつばさ学級の様子を見たり、つばさ学級の児童・生徒や指導員と交流したりすることができるようになります。

なお、今年度新型コロナウイルスの影響で登校できない子どもを対象に、オンラインで朝の会を行った学校もあります。

次に、5項目めの太宰府市のICT教育の将来を見据えた取組についてですが、本市ではICTを効果的に活用するに当たり、3つのカリキュラムが必要であると考えております。

1点目は、ICT活用スキルカリキュラムです。これは、今後の社会では必ず必要になるタブレットやキーボードなどの操作スキルを育成するものです。

2点目は、情報モラルカリキュラムです。これは、情報社会の中で正しい判断ができるよう、心と知恵を磨くことを狙いとしています。

3点目は、プログラミング教育カリキュラムです。これは、プログラミング的思考を育成するものです。

今後、それぞれの学校の実情や児童・生徒の実態を踏まえ、実践を積み重ねることで、より充実したものへと更新してまいります。

また、本市のICT活用基本方針である一人一人に最適で効果的な学びや支援を提供すること、多様な学びの場を提供することを実現するため、効果的な実践の蓄積や環境整備を推進してまいります。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ご回答ありがとうございました。では、ICTのデジタル教材の活用について、また再質問させていただきたいと思います。

まず、ICT教育の基本と申しますか、柱にあるもの、デジタル教科書だと思っております。デジタル教科書による授業を推進するためには、電子黒板、大型ディスプレイやパソコン、タブレット端末機器などが必要だと思います。

ご存じのとおり、デジタル教科書は、単にこれまで使っていた紙の教科書がパソコンやタブレットなどで読むことができるようになるだけではありません。画面上に調べたことを直接書き込み、児童・生徒間で共有したり、英語の発音など音声で聞くこともできます。インターネットにつなぎ込み、教科書にはない資料や動画を閲覧したりすることもできます。教員による児童・生徒の学習履歴の把握や双方向性授業も可能となります。これがデジタル教科書です。

既に2019年4月に学校教育法の一部を改正する法律等関係法令が施行され、文科省によってデジタル教科書の導入が制度化されています。肝心なめのデジタル教科書は各小・中学校に導入されていますか、お伺いたします。

デジタル教科書は、指導用と児童・生徒用がございますが、ここで伺っているのは指導者用デジタル教科書のことを言っておりますので、よろしくお伺いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 指導者用デジタル教科書につきましては、全ての教科ではありませんが、全学校全学年に導入をして、既に活用しております。例えばシミュレーションですね、理科の実験なんかでなかなかできないようなものは、映像を提示しながら子どもたちに説明する、ということが非常に有効に使われております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ありがとうございます。

次に行きます。

太宰府市の6月の広報で、先進教育の推進、タブレットを使った授業が始まりましたと案内されておりますが、タブレット授業はデジタル教科書を利用した授業と理解してよろしいでしょうか、お伺いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） デジタル教科書は、先ほどから議員ご指摘のとおり、紙の教科書にはない機能があって、大変すばらしいです。1人1台タブレットにデジタル教科書が導入されることで、より分かりやすい授業となることは当然期待されています。

一方で、現在の紙の教科書にも、例えば音楽の楽譜が載っているページの端っこにQRコードがついているんですね。これをタブレットで読み込むと、その楽譜の音楽がタブレットから流れてくる、こういうふうなことがもう既に行われております。ほかにも映像資料だとか動画だとかをQRコードで取り込むことができます。これはもう既に今学校で行うことができます。家庭でも行えます。

ですので、学習用のデジタル教科書というのは、現在国のほうでまだ検証されているところで、これからどういうふうな方向に向かうのかというのが決まっていきますので、当面は紙のよさだとかデジタルのよさだとかを生かしながら、授業づくりを行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ちょっと同じような質問になるかと思いますが、2018年2月、4年前に文科省はデジタル教科書の整備状況を調査しております。これによると、小学校52.1%、中学校は58.1%の学校がデジタル教科書の整備をしております。もちろん、この教科書を活用するために、電子黒板も設置されているはずですが、4年前の調査で50%を超えている状況にあります。

ここで私が言うデジタル教科書の整備とは、現在学校で使用している教科書に準拠し、教員が電子黒板を用いて児童・生徒への指導用に活用している数値でございます。

太宰府市はICT教育に私から見ればちょっと後れを取っているように思いますが、忌憚のない感想を伺いたいと思います。

また、デジタル教科書を本格的に使用するまでの工程、計画を少し伺いたいと思います。

それと、何事にも現状の認識、把握が必要であり、これを踏まえ計画を立て、推進していくことが大事なことだと思っております。デジタル教科書の整備等計画を推進し、本格的に使用することを最重要課題としていただきたいと思います。お考えをお伺いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 数値については、ちょっとこちらのほうで手持ちのものはございませんが、おっしゃったとおりこれは指導者用の教科書の数値だと思いますので、4年前のうちの数値がここにはございませんが、現在は先ほど申し上げましたとおり、全ての学校、全学年に導入しておりますが、まだ導入できてない教科等がございますので、そちらにつきましては現在の取組の状況、効果等に応じて広げていくことも含めて検討していきたいと思っております。

かなりのところでかなりの場面で有効に使ってありますので、どこと比較するというわけではないんですけども、決して後れているということではなくて、よい実践をどんどん広めていっていければ、活性化していければと思っております。

続きまして、デジタル教科書の整備計画ということでございますが、指導者用につきましては、今申し上げたとおり順次配備をしておりますが、学習者用のデジタル教科書につきましては、先ほどこれも申し上げましたが、国のほうがまだ実証している状況でございます。

本市につきましては、小学校3校、中学校4校に試験的に導入しています。これは国のほうが実証を手伝ってくれということで導入をしておるところでございますので、こちらの結果も踏まえながら、もちろん国の方針もあると思っておりますので、そちらも踏まえながら今後の導入について検討いたします。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ありがとうございます。

次に、ICT教育に対する教職員の皆様の指導力向上について質問させていただきます。

教職員の皆様の中には、ICT機器と言っただけで敬遠してしまう方がいるのではないのでしょうかと思っております。ICT教育化は、ただデジタル機器を取り入れるだけでは成立しません。ICT活用を前提とした授業設定の見直しや、児童・生徒への適切な指導、フォローが必要です。それには指導する立場の教職員の皆様の指導力向上が不可欠の問題となります。

しかしながら、現在の教職員の皆様は、従来の教育方法を習得され、教職員の職に就かれています。経験がございません。行政がいろいろな形で指導力向上を図っていかなければなりません。具体的な研修や講習会を実施し、指導力のレベルアップをする必要がございます。教職員の皆さんの指導力向上のため、計画、実行していただきたいと思っておりますが、お考えをお伺いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） デジタル教科書の話は先ほどからありましたが、私もタブレットは持っておりますが、タブレットで読書をするのか、紙で読書をするのかといえば、まだ私は紙で読書をします。それぞれのよさはあると思うんですが、なかなか今までこうやってきたことを切り替えるというのは難しいことであるのかなと思っております。

先生方がタブレットが全員に入ったということで、なかなかそちらに向かっていけないというか、敬遠されているという今のご指摘は、もう本当にそのとおりでございますし、それは先生方が悪いということではなくて、日々の忙しい中で、また新しいことをやっていくという、なかなか困難なことだと思っております。

しかし、せっかく配備されたことでございますので、先ほども答弁もいたしました、市の主催の研修会を充実させていく方向でしております。具体的にこういう使い方がありますよとか、困ったことがあるときにはこういうことをやればトラブルを回避できますよとか、そういう具体的な研修会を継続してやっていきたいと思っております。先生方のニーズや社会の要請に応じるような工夫をしながら、これからも進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ありがとうございます。ぜひそうしていただければ。

それと、文科省で教職員に求められるICT活用、指導力向上の調査結果がちょっとございましたので、2018年調査で、授業中にICTを活用して指導する能力76.6%、児童・生徒へのICT活用を指導する能力が67.1%、教材研究、指導の準備、評価などにICTを活用する能力が84.8%と、いずれも高い数値で調査結果が出ております。

太宰府市の教職員の皆様も高い指導力をお持ちであると思料しますが、行政側がこれらの能力を把握することが大事なことだと思っております。現在把握しておられれば、そういう把握状況をお伺いしたいのですが、お願いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） ICT活用能力調査につきましては、毎年実施されておるのはこちらのほうも把握しておりますが、ちょっと今のところこちらに手持ちがないので、傾向のほうを十分ご説明できないんですけれども、先生方の声等々を伺うと、もちろん頑張っって導入しているということはご協力いただいておりますけれども、決して十分とは言えないと思っております。

それは、タブレットを活用した授業だとか家庭での活用、これをもっと推進するためには、さらに研修をしていかなければならないと考えておりますので、この前に答弁いたしました、研修のほうを充実して行って、少しでも能力を高めていけるように、これは子どもたちも先生方もだと思っておりますが、努めてまいります。以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ありがとうございます。教職員の皆様のICT活用、指導力把握は簡単なことじゃないと思っております。現状を踏まえて、教職員の皆様のICT教育、指導力の向上をしていただくようお願いしたいと思います。

続きまして、ちょっとお話しさせていただきますが、ご承知と思いますが、兵庫県教育委員会が策定した教員のICT活用指導力向上のための研修プログラムがございます。校内研修用

に自由に使えるようになっていきます。利用価値のあるプログラムだと思っております。

その資料中に、太宰府市教育委員をされておられます桑野裕文委員が提唱されている地方都市太宰府における夢ビジョン2020も掲載されておりますので、一度検証されてはいかがでしょうか。

学校と各家庭をインターネットでつないだICT教育も大事ですが、学校での授業でも本格的にICT教育がなされていない現状から見ますと、早急には実施できないことは理解しております。新型コロナ問題により学校が休校になった場合や、夏休み期間中児童・生徒への指導を思料することなどなおざりになってはならないと思っております。児童・生徒用デジタル教科書の導入と併せて、今の段階から計画すべきですが、お考えを伺いたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 児童・生徒がオンラインで学校とつながることで、可能性は非常に広がると思っております。先ほどの学校に来れない子どもたちが朝の会を経験したという話もありますし、いろいろなところでもう始まっております。

例えばオンラインでつながって、学校に来れない子が、10分休みに子どもたち同士がもう雑談をしているような話も聞きますし、あるところでは授業を見ながら、その感想を述べたというような話も聞きますので、これからそれをしっかりと形づくって、全体で進めてまいりたいと思います。

また、デジタルドリル等も活用しておりますので、こちらについても家庭で活用できるように取り組んでまいりたいと思います。可能性が非常に広がるものだと思っておりますので、市全体で進めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） 計画する際には、本当、つばさ学級など、つばさ学級にも通学できないいろいろなお子さんがいると思いますが、そちらの対応についても計画に入れていただきますようお願い申し上げます。

最後の方になってきますが、ICT教育の後れは、予算上の問題のほかに、学校、教育委員会、行政などの取組姿勢に左右されます。単に授業にデジタル機器を取り入れるだけでも成立しません。ICT活用を前提とした授業の見直しや児童・生徒への適切な指導とフォローが大事なことです。教職員に丸投げしてはいけないことは言うまでもありません。学校、教育委員会、行政が一丸となって取り組む問題でございます。

さきに述べましたとおり、ほかの市町村ではICT教育を本格的に推進しておられます。太宰府市の現状から、現在通学している児童・生徒が高校生になったとき、初めてICT教育に出会うことになるのではないかと危惧しています。大きな差がついたまま中学を卒業させていけません。

太宰府市の小・中学校に通学している児童・生徒への思いを込めた力強いメッセージなるこ

とを期待して、ICT教育の取組の決意を教育長にお伺いしたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育長。

○教育長（樋田京子） いろいろご質問、ご指摘いただきましてありがとうございます。

学校におけるICTの環境整備につきましては、地域間格差がありまして、全国的に見ましても、九州の中でも福岡県は後れぎみでございました。例えば佐賀県の武雄市などはかなり前から取り組んでおりまして、成果を上げてきているところがございます。しかし、その中でも、太宰府市ではICT環境整備に係る予算措置を検討し、一歩進んだ取組を進める準備をしていたところがございます。

しかし、このコロナ禍で、国の補助金により全国一斉に整備が進みました。その関係で、本市におきましても1人1台パソコン端末が配備されたところがございます。本当にありがたいと思っているところです。

自分のパソコンを手にした子どもたちの喜びようはすごくて、本当にうれしそうで、今ネット検索をしたり、校庭に出てタブレットで写した植物や動物を学級に持ち帰って見せ合ったり、もう校内でチャットをしてみたりと、様々なことにチャレンジをし始めています。そういう子どもたちの姿を見て、先生方も逆に意欲的になられてきていると。これなら子どもに負けれない、子どもに教える力をつけようというような意欲が盛り上がってきているということ、各学校からも報告を受けているところがございます。

先ほどご指摘いただきましたように、教職員の指導力の向上というのは大変重要でございますが、どうしてもパソコンが不得手という先生もおられますので、私どもとしては、まずは子どもと一緒に楽しく使い始めてくださいと、子どもと一緒に学んでいってくださいというようなお願いもしているところがございます。

これからのSociety5.0社会を生きていく子どもたちには、ICTの活用は不可欠でございます。入江議員のご提言、ご提案を真摯に受け止めまして、太宰府市のICT教育をしっかり進めてまいりたいと考えております。どうもありがとうございます。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員。

○7番（入江 寿議員） ありがとうございます。ICTって、自分らの時代からするとすごいやつができたと思います。タブレットなんか、端末、何でも調べたいことに対してはすぐに情報が入ってくる。こんなすばらしいものを活用して教育に生かせるというのは本当に最高だと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長様におかれましても、これからの教育、結構テレビに出られて、この頃、私の息子も太宰府中学1年生なんで、ちょっとテレビに映ってなかったんですけども、何か喜んでしていましたので、どうぞどうぞ今後の教育を太宰府が1番となるぐらいによろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（陶山良尚議員） 7番入江寿議員の一般質問は終わりました。

ここで13時50分まで休憩いたします。

休憩 午後1時39分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午後1時50分

○議長（陶山良尚議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

5番笠利毅議員の一般質問を許可します。

〔5番 笠利毅議員 登壇〕

○5番（笠利 毅議員） 議長より許可をいただきましたので、一般質問を行わせていただきます。

まず、通告を再読します。

ランチサービスでは実現できない市としての目標、課題が給食にはあるはずである。何も進んでいないという声もある中、今、市は何をしているのか伺う。

これだけで聞きたいことを尽くせると思っているのですが、補足します。

中学校給食のことを考えると、私の頭にまずずらっと浮かんでくるのは、知り合いのお母さんたちの顔です。お父さんの顔は僅かです。そして、その子どもたち。私の記憶の中では小学生ですが、今はもう高校生にもなっています。未就学だった弟や妹たちも、もうすぐ中学生でしょう。

つまり、1つには、日本が世界の最底辺を突っ走っているという現状にあるジェンダーの不平等というか、ジェンダーの平等が強く意識の中にあるということです。

そしてもう一つ、子どもたちはあつという間に次の世代、次の社会を形づくっていきます。時間は待ってくれないとの思いを抱えています。

解決すべき社会の課題と、誰のための給食かと、そういう反省の意識を念頭に持ち続けることが大切だと思っています。

さて、中学校完全給食について、楠田市長は任期中に一定の方針を示すと繰り返されています。今回の質問は、その方針の言明を求めるものではありません。市長が方針を定める前に、全庁的な検討が段階的に進められるはずで、また全市民的な理解がそこに伴うべきであると考えられます。

しかし、議会でも繰り返し質問が行われているにもかかわらず、その過程は、またその検討内容は全く明らかになっていません。それゆえ、現時点で市長が意思表明を行っても、重要な政策判断であるにもかかわらず、市民的な検証には堪えられないと私は考えています。

また、現行のランチサービスの改善状況を確認することを意図してもいません。したがって、それに関する答弁は不要です。

平成28年8月に太宰府市立学校給食改善研究委員会による望ましい中学校給食の在り方についての答申が出され、さらにそれを踏まえた報告が当時の樋田教育委員会委員長からなされま

した。答申には、完全給食実施に当たり懸念されることが幾つか列挙されていますが、それらはいずれも現状、当時のということですが、現状からすると困難が予想されるというものです。それでもなお望ましい給食の在り方を志向しているのが、平成28年の答申です。現状を変えなければ、よりよい学校給食は実現できないという考え方を、そこから学び取るべきだと私は考えています。

言い換えれば、ランチサービスと完全給食がどう質的に異なるかを意識することなしに中学校完全給食を構想し、現状からステップアップした目標を立てることはできないということです。仮に当面はランチサービスが続くとしても、その改善の方向も、ビジョンとして給食というものを持っていなければ見いだせないということです。

芦刈前市長の下、お金がないという現状を理由に、太宰府市はあっさりと白旗を揚げました。それに立ち向かうビジョンを欠いていたのが原因であると私は考えています。敗北主義です。

楠田市長の下では、お金がないという現状に立ち向かう意思は感じていますが、それが中学校給食の実現に十分かどうか、あるいは結びつくのか、まだ判然としません。

ただ、最近の楠田市長のこの問題に関する答弁では、給食とランチサービスという用語の使い分けが曖昧ではないかと思うことがあります。

私は、これまで現市政では完全給食、これの実施方式や財源の再検討をゼロベースで行ってきたと理解してきましたが、この頃その点も曖昧だとの印象を持っています。やはり現状に安住して次の一步を見失いつつあるのではないかと懸念しています。

そこで、初めに教育委員会の立場からもう一度、ランチサービスではなく給食を実現する意義について説明していただけるようお願いいたします。

併せて、次の点も伺っておきます。

ゼロベースでの検討と言われていますが、ゼロベースでの検討とは、平成28年8月の教育委員会報告の1、基本的な考え方からゼロにする、つまり全ての生徒を対象とした主食、おかず、ミルクから成る完全給食、これを取りやめるということも含意し得るのかと、この点を確認させてください。ゼロベースの意味です。

今何をしているのかと通告で書きましたけれども、ということについては、もう少し伺っておきます。

中学校給食調査研究委員会で集めた資料、これをどのようなテーマや目標に沿って分析してきたか、各部署ごとに教えていただきたい。もしも部署ごとで導き出した確定的な結論があるのなら、それにも言及してください。そのようなものが特になければ、その点への言及は不要です。

そして、現在まで中学校給食調査研究委員会の後継組織があるようには聞いていませんが、市長が方針を表明するためには、各部署による分析を管理する担当が必要と考えられます。誰、もしくはどこが資料分析の進捗管理を受け持ってきたのか、それを伺います。そのような

担当がいなかったのであれば、いなかったと答えてください。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 中学校完全給食について議員からいただきましたご質問についてご回答いたします。

近年の食生活の乱れを背景として、平成17年に食育基本法が制定、施行されました。さらに、平成21年4月には学校給食法が改正され、食育という観点から食文化の理解や勤労を重んじる態度の育成、生命及び自然尊重の精神、並びに環境の保全に寄与する態度の育成などが学校給食の目標として新たに追加されました。

また、学校における食育は、教育活動全体を通じて総合的に推進するものであるとした上で、学校給食を食育の具体的な指導の場として位置づけたと理解しております。

教育委員会といたしましては、厳しい財政事情や当事者である中学生の意見などを考慮し、現在は目の前にいる中学生に安心して、よりおいしく食べてもらえるランチサービスの充実を図っているところです。法の基本理念にのっとり、児童・生徒が生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることができるよう、今後とも食に関する指導の充実を図るための取組を推進してまいります。

なお、中学生の昼食に関する現状や意識を知るために、本年度実施しますランチサービス試食会後に、新しく導入した1人1台パソコン端末を利用してアンケート調査を行うこととしております。

次に、中学校給食調査研究委員会では、ランチサービスの現状や課題、アンケート調査の結果、給食を実施する場合の各提供方式の特性や必要な財源、中学校の教育活動に及ぼす効果、影響、整備、運営に係る費用等について、改めて原点に立ち戻り調査研究を行いました。

現在は、三役会議や経営会議、部長会議等で継続的に協議を行っておりますので、各担当部署が情報収集を行うとともに、財政面においても引き続き検討を重ねております。

議員ご指摘のとおり、誰のための給食かと考えますと、子どもの健康の保持、増進、望ましい食習慣の育成、食文化の理解や感謝の心の醸成など、様々な学校給食の目標を達成するとともに、何よりも子どもの学校生活を豊かにし、楽しみする時間としていきたいと考えております。

今後も市長部局と連携し、さらなる給食環境の向上を図るために議論を重ねてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 5 番笠利毅議員。

○5 番（笠利 毅議員） ご回答ありがとうございます。

今回の私の質問は、形式的には1件1項目のごくごく素朴な、何をしているかというだけの質問なんですけれども、ただ4つのポイントからご回答をいただきたいというふうなことは伝



わったかと思えます。それについては直接の回答がなかったと感じておりますので、改めてお尋ねせざるを得ません。

今のご回答、ポイントは別ですけれども、4点回答があったと思うんですね。まずは、各種の法に基づいた一般的な給食に関する位置づけのこと、それとアンケートは、昨日も出ましたけれども、またやっていきたいと。現在も協議は続けているということ、給食環境なるものの向上の議論を続けていきたいということだったと思えます。

ただ、私の質問は、ランチサービスではなくて、給食を実現するために何をしているのかという質問なので、したがって最初にまず、ランチサービスと給食が何が違うと認識しているのかということをお聞きしています。

まず、そこらからいきましょうか。ランチサービスと完全給食と言われるものと、太宰府市は前市長のときにではありますけれども答申を受けて、完全給食を目指すということにしていますから、ランチサービスでは実現できないとみなした何かがあるはずなんですね。それを市としてどのように考えているのか、まずそこをお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） ランチサービスでは実現できない、裏返せば給食にしかできないというようなことでよろしいでしょうか。

学校給食法にのっとり完全給食は、学校給食実施基準の第1条により、実施の対象が当該学校に在籍する全ての児童・生徒に対し実施されるものとするとしておりますので、全員喫食が原則となります。全員喫食の完全給食は、全員が同じ給食を食べることによるバランスのよい栄養素の摂取、一体感や準備、片づけ等で協働の精神が育成できるなどのよさが挙げられております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） 次に、もう一つのポイントですけれども、そのゼロベースということ、今言われたような意味での完全給食というものを断念することまでも含めてゼロベースでの検討と今まで言われてきたのか、そうではなくて、芦刈前市長のときのことを思うならば、完全給食を実現する方法に関してのみゼロベースで検討すると言ってきたのか、その点をお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） ゼロベースという言葉は私が使ってきましたので、私からお答えをいたします。

結論から申しますと、全てをゼロベースという私の使い方は、全て含めてゼロベースという言葉で使っておりまして、いろいろご批判なりご指摘があるかもしれませんが、私が市長就任前に出てきた様々な報告なり、その当時の市としての考え方というのは、もちろん継続性なり尊重すべき点もちろんあるという上で、ただ一方で、私自身市長に就任してから、就任する

際に皆さんとお約束をしてきたこともありますし、私自身が市長としてやるべきことということとは、全てにおいてゼロベースで考えてきたつもりであります。

そうした中で、給食につきましても本当の意味で、これまでランチサービスを導入してきた経緯なり、その後ランチサービスを続けてきた中でどのようなプラス・マイナスがあったのか、そして完全給食というのをかつて目指した中で、じゃあ何が原因でそれが実現できなかったのか、課題としてあるのか、そういうことも含めて全てにおいて過去も振り返り、そして私自身の責任において、どのような形でこの中学生の昼食環境、給食環境を整えていくか、そういうことをゼロベースで見直してきたということでもあります。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） 3つ目のことですけれども、中学校給食調査研究委員会で資料を収集したというのが、2年半ほど前の年末に一旦終わっているかと思えます。その後、それらについては分析、研究、調査というか、今回はそれについて三役会議等で協議は続けているという回答がありましたけれども、私が最初に聞いたのは、各部から集まったメンバーで、一旦みんなで集めた資料を、当然その後2年半ほどの間に検討を加えてきたかと思うんですけれども、それをどのようなテーマに絞って分析してきたのかということを知っています。それについて、何もないというのであれば、何もないと教えてください。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 調査研究委員会では、先ほど答弁いたしました内容、本市の中学生の給食の現状や課題等をはじめ意識調査結果、実施する場合の各提供方式の特性や必要な財源、中学校の教育活動に及ぼす効果、影響、整備、運営に係る費用等につきまして、財政面、施設面、運営面から調査研究を行いました。

厳しい財政状況もあり、現在も引き続き研究を続けておりますが、まだ確定的な結論を導き出すまでには至っておりません。今後の見通しが立ちましたらご報告をさせていただきます。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） 今までについては少し確認しますけれども、一旦集まった構成員がばらばらに分かれていくときに、普通なら分業して分担し合うということを考えるんですけれども、かと思うんですけれども、というか、私だったら考えますけれども、今のご回答だったら、全体的な内容を今でも検討しているということで、集まった者が分かれた意味がないような気がするんですね。ので、各部署ごと分担を決めるということがあったのかなかったのか。分担というか、受け持ちとか、まずその点をお聞きしたいというのが1つ。まず、それをお願いします。

○議長（陶山良尚議員） 教育部長。

○教育部長（藤井泰人） 大きく言いまして財政面、施設整備面、運営面で役割分担を決めて、それぞれ総務部、また教育部等で役割分担を、それぞれの財政、施設、運営面で役割を分担して、今引き続き研究をしているという状況であります。

○議長（陶山良尚議員） 5 番笠利毅議員。

○5 番（笠利 毅議員） なぜそれを確認したかったかという、今、財政、施設、運営という事務レベルの、言ってしまうと事務レベルの検討は行っているということでしたけれども、先ほど市長の回答によれば、そもそも給食を実施するかどうかも含めてゼロベースで考えたということであるならば、給食を実現することによって果たすべき教育的な目的というのがあったと私は信じていたんですけども、それについてはその後研究も重ねることなく、今ゼロベースにしているというふうには受け取らざるを得ないので、ちょっとそこでコメントを入れておきます。そう考えるのが妥当だと思います。

先ほど2つほどお聞きしたいと言ったもう一点なんですけれども、平成28年の樋田教育長が当時教育委員長として総合教育会議でしたか、報告をされた答申がありますけれども、ちなみに私はあのときの樋田委員長の所感というのが結構気に入っております。それはいいんですけども、結構気に入っております。

そこで、最初に少し言及しましたが、幾つか現状に課題があるということが述べられています。そのとおりの引用ではないのですが、その5つというのが、これは今回の回答にもありましたけれども、昨日かな、子どもが選択制というのを好んでいるという課題、教職員の体制が不十分であるという課題、学校生活の時間の問題、教員の負担が増えるかもしれないという課題、給食費の未納に伴う事務負担の課題、小学校給食施設改修への影響といったものが挙げられています。

私は各部署に持ち帰ってという質問をつくったときには、これらの解決を図るための検討というものが引き続きなされているのではないかとすることを想定して聞いています。

ただ、先ほどの回答からだとすれば、ほとんどほぼ全てこれは教育的な内容なので、それは考慮されていなかったというふうには受け止めるのですけれども、その点について一言お願いしたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育長。

○教育長（樋田京子） まず、私が平成28年8月に前市長のほうに教育委員会の報告を上げさせていただきまして、そのときたくさん課題を述べさせていただいたわけでございます。今改めて考えますときに、そういう課題について、いわゆる実施しながら解決をしていくべき課題と、実施をする前にどうしても解決をしておかなきゃいけない課題があるなというふうに整理をしております。

例えば時制の問題であるとか、それからそのほかの先生方の負担の問題であるとか、そういうことにつきましては全国どこでも悩みながら、課題を抱えながらやっておりますので、実施する中で解決をしていくと。ただ、実施に当たる前にぜひ解決しておかなきゃいけないのは、財源をどう確保するかということと、じゃあ今子どもの意思表示といいますか、子どもの意見と保護者の意見が給食に関してはもう大きく分かれるものですから、これをどう整理するかというところは、実施の前にどうしても整備をしておかなきゃいけないというふうに考えている

ところでございます。

そういう意味で、今度、試食会の後に、もう一度子どもたちの昼食の状況等も確認しながらというふうに思っているところでございます。

それから、調査研究委員会の中では、確かに事務的にいろいろな経費であるとか、方式であるとか、そういうのを資料を持ち寄って研究もいたしました。特に、近隣の市町村がどういう形でやってあるか、全国的にどういう状況であるか、予算的なものはどういうものであるかということもやりましたが、一番最初の会合では選択制と完全給食のそれぞれのよさ、特徴というものの話をざっくばらんにしていくことから始めました。

委員の大半は保護者であり、また太宰府市民でありますので、そういう意味では自分の経験を踏まえていろいろな考えを述べたり、または疑問点を出し合う。同じ市の職員であっても、それぞれ分からないことがたくさんありましたので、それを出し合うことから始めたということでございます。その中でこういうことを調べよう、こういうことも必要だなということに発展していったというふうに私は今考えております。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 5 番笠利毅議員。

○5 番（笠利 毅議員） もう一つのポイントのところに行きますけれども、今ざっくばらんに話すことからということがありましたけれども、あまり分業的な分析はされなかったということであるので、最終的なところはあまり意味のない質問になっているんですけれども、市長が意思表示をする前に、どこがそのまとめ役的な位置を担うのかという質問でしたけれども、なぜこれを入れたかという、市長の意思表示も大切なんですけれども、これは芦刈さんが市長をされていた頃の教育委員会や総合教育会議で教育委員さんの方から、私たちもやっぱり一緒に考えていたいというような意見が出ていたと思います。

日下部さんが教育委員になられたときにもそういう意見があったように記憶しているので、楠田市長になってからも出ていたかと思うんですけれども、今意思表示をしても、市民的な検証には堪えられないだろうという言い方を最初にしましたけれども、これは武藤教育委員の表現を借りさせていただけば、太宰府らしい給食というものをどうやってつくるかということのつもりで質問しています。

太宰府らしいというのは、みんながみんな話合って、みんなが納得できるものになりたいということを武藤さんが繰り返し言われていたかと思うんですけれども、そのためには、今は事務レベルで検討が進められていますけれども、いずれは議会もですけれども、何よりも保護者、子どもも含めて市民の間で納得いくものにつくっていかなければならないと思うんですね。そのためにはまとめる必要がある。それは一体誰がやっているのかということを知ったかかったということです。

最初に、担当がいなかったのであれば、いなかったと教えてくださいと言っていますので、もしいなかったのであれば、いなかったというふうに答えていただきたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 担当といたしますか、とにかく全ての責任は私が負っていますので、最終的に給食がどのような形で進めることも含めて、予算決定の際、私が最終的に予算決定しますので、今回はランチサービスの充実という予算決定をしたということは、私の責任においてやっています。

そうした中で、ただ一方で、将来的な完全給食を目指していくことももちろん否定はしていないわけでありましてけれども、そうした中で、担当が1部署ということではなくて、私の責任の下に、まず三役会議もありますし、部長会議もありますし、経営会議ももちろんありますし、そして教育委員会教育部、そうした中でそれぞれがつかさつかさで様々な試算を行い、そして可能性を探り、でも最終的にはやはり、もう議員もご存じだと思いますけれども、その中のどれほどの予算をやはり確保して、この給食問題に振り向けることができるかを、最終的には年度年度決めていかなければなりませんので、そうした意味では担当がいるというよりは、私が最後は責任を負っているという考え方であります。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） ありがとうございます。形式的にはそういうことになろうかと思うんですけれども、後でもというか、常にその思いがあるので、また言うかもしれませんけれども、実質的には今の市長の判断にだけ負わせるべき事柄ではないと思っています。

また、教育長からは、保護者と子どもということがさっきありましたけれども、これは単に今の保護者と子どもの問題ではなくて、むしろ最初、当時の弟や妹がもうすぐ中学生なんてという言い方をしましたけれども、これからの子どもたち、それをどういうふうに育てていくかという問題だと私は認識しています。後でその点には触れると思いますので、一言だけそこは言っておきたいと思います。

実質的にはここからが再質問の内容だというふうに考えていただきたいんですけれども、いただいた回答に基づいて、先ほど堀理事に述べていただいた回答に基づいて幾つかお聞きしておきたいと思います。

じゃあ、アンケート調査のことですけれども、アンケート調査をするつもりであるということは、昨日も原田議員や神武議員の質問に対する回答の中で出ていて、それによって給食、完全給食のことなのか、ランチサービスのことなのかよく分かりませんが、給食環境と言われるものの在り方に影響があるかのような答弁が昨日あったかと思います。

さっきちょっと触れましたように、将来の子どもに関わる問題だということに関して言えば、前回芦刈市長の下で、10年ぶりぐらいでしたか、再びアンケート調査がなされたことで、一定の判断材料としては、当時それが使われた上での完全給食の導入を目指すという話であったと思うんですね。その後、言ってみれば4年間放置されたような形になっているわけですが、それをもう一回アンケートを取り直して、それによって在り方を考え直すということをお繰り返しては、いつまでたっても前に進まないという心配を持ちます。

したがって、これは質問なんですけれども、今回のアンケート調査は、私に対する今日の回答を見ると、試食会等に伴って、その様子についてのアンケート調査であるかのようにも聞こえたんですけれども、果たしてそういう日常的な給食やランチサービスをめぐる政策決定に関わるようなものとして意識したアンケート調査なのか、単にランチサービスの試食会のランチサービスの改善というのを主に念頭に置いてのアンケート調査にするつもりなのか、ちょっとそこをお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 今回予算もいただきましたが、ランチサービスの充実ということで、喫食率を倍増するというのを1つ大きな目標に掲げてやっております。今回のアンケートにつきましては、あくまでもランチサービスの改善ということで、お子さん方、それと保護者の方にも聞くようにしております。

中身につきましては、例えば注文をした、しなかったというのがあるので、その理由だとか、いつもは何を食べていますかだとか、改善点は具体的にどういうことがありますかとか、そういうことでございます。

以上でございます。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） そのことと、いただいた回答の中で、現在どういう協議を重ねるかということについてさっきちょっと聞いたので省きますけれども、誰のための給食かということを考えてということでご回答をいただいているかと思えます。

子どもの学校生活を豊かにし、楽しむ時間としていきたいということなので、楽しみにしてほしいと私も心底思っているんですけれども、ただ、1つ気になることがあります。

さっきもちょっと言いましたけれども、誰のための給食かということ私を最初の質問の中で言う前に、解決すべき社会的な課題というものについても言及しています。それについては回答がないので、これは本当は最初の回答の1ポイント目で答えがあるだろうと思っていたんですけれども、それもはっきりしませんでしたので、改めて聞きますけれども、給食、ランチサービスを含めて広義の給食、給食というものを考えるときに、どのような社会的な課題、これからの未来の、未来というところちょっと遠過ぎますけれども、社会の要請に応えていきたいと考えているのか、その点をお聞かせください。

○議長（陶山良尚議員） 教育長。

○教育長（樋田京子） 給食の問題を考えると、これは単なる教育問題だけではないなというふうに考えております。大きな社会問題、社会全体で解決すべき問題を含んでいるというふうに思うところでございます。

平成17年に食育基本法が成立したときの背景は、やはり1つは大人の生活習慣病でした。それから、子どもで言えば、朝御飯を食べてこないとか、孤食であるとか、貧困の問題と、偏食の問題とか、そういうのがありました。それから、家庭の教育力の低下。それから、先ほどお

っしゃっていただいたジェンダー平等論、いろいろな中で食育基本法が成立いたしましたして、国民運動という形で展開をされました。

その後を受けまして、文科省のほうで学校給食法を改正していきまして、7つの目標ということになったわけでございます。

それを踏まえますと、学校給食というのは、そういう食の安全も含めたいろいろな要素を持っているというふうに理解をしているところでございます。

ただ、ちょっと時々考えますと、生活習慣病になった大人は、じゃあ小・中学校で何食べていたのかなとかというふうに思いますと、ただ学校給食をきちんと食べさせれば、将来的にずっと自分の健康を考えていく大人になるとは限らないなというのがありますので、どちらにしても食育という観点はしっかり持ちながら、実施をする、しないにしても、それを改めて教育的にきちんと捉えてやっていかなければ意味はないというふうに思うところもあります。

ただ、そういうふうにそんなことを総合的に考えたときに、どういう判断をすべきかというところの今岐路に立っているのかなというふうに思っているところでございます。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） ありがとうございます。

給食とそれをめぐる社会的な課題については、もう答申等の中でも触れられていますし、世間的にも様々な観点から様々なことが言われているので、全てを挙げてもしょうがないので、それを言うつもりは私は自分からはあまりないので、教育長に言っていただけてよかったと思います。

ただ、私自身が個人的に、例えば社会的な課題というのを食育を入りにしてぱっと浮かぶのをざあっと書いてみたんですけれども、列举すれば、環境、食糧自給の問題、地域経済の問題、社会構造と世界の格差、栄養、分業、格差、偏見、災害対策、コミュニケーションの取り方と、もう幾らでも出てくるんですね。挙げ出したら切りがない。

逆に言うと、先ほど教育長が動きながら解決している課題と、あらかじめ解決していくべき課題ということがありましたけれども、給食については全庁的に皆さんで考えてきたわけですから、給食を実現するために、教育長が今教育の面からおっしゃられたのはそれでいいと思うんですけれども、市長部局のほうで一見関係ないようなところでも、この政策を進めることによって、今直ちには給食でその手を差し伸べてあげられることができないとするならば、そっちで力を入れるということで市役所を動かしてほしいんですね。そうでないと、総合教育会議を持っている意味がないと私は思います。

そういうことを期待するので、分担や分業をしてきたのかということを最初に聞いています。これは私の考え方ですけれども、そうそう変な考え方ではないとは思いますが、ちょっと覚えておいていただきたいと思います。

しゃべりたいことは幾らでもあるんですけどもな。

それと、これはじゃあ市長に1つだけ聞いておきましょうか。今言ったことと少し関係があ

りますけれども、さっきもちょっと言いましたように、総合教育会議に、これは教育委員さんからの言葉としてもありましたけれども、主催が市長部局のほうで経営企画の担当ということなので、あそこでは給食について気になっていても、議題として上げてもらわないと話すこともできないという意見が、これは芦刈さんのときだったか、楠田市長になって最初のときだったか覚えていませんけれども、あったかと思えます。

その後、実際全く議論が投げかけられていないんですね。どういうことを教育部として必要としているかという話にもならないし、市長部局としても何もないと。どうしてそういう選択になってきたのかということ、簡潔に一言いただければと思います。

○議長（陶山良尚議員） 市長。

○市長（楠田大蔵） なかなか簡潔には言いにくいところがありますが、いずれにしても総合教育会議、私の主催という形にはなっていますけれども、基本的には教育部局での様々な取組について、いろいろ私自身も進捗を聞き、そして私なりの方針を伝える、そうしたことをやってきたわけであります。そうした中で、給食の件が今まで上がって来ていなかったということですが、やはり私自身、市長部局においても、とにかく食育の大切さとか完全給食ということの重要性というもの、そうしたこと、子どもたちを考えたときにどうすべきか、また子どもたちの意見はどういうところなのか。そういうところも含めて常々お聞きをしてきましたし、総合教育会議では議題としては上がっていませんけれども、常々お聞きしてきましたが、やはり総合教育会議に上げるからには、市長部局として全体として何か動かしていく方向性のある程度持った上で提案をする形になろうかと思いますが、残念ながら、ちょっと今改めてやり取りしながら思っていたんですけれども、ちょっと長くなって恐縮ですが、初年度、私も就任していろいろ混乱もありましたが、そこも収束して、初年度から6,700万円でしたかね、市税も増加し、そして次の令和元年度は1億3,000万円ほどですか、市税も増加してきて、ふるさと納税も4,000万円から10倍まで、4億3,000万円まで上がって来て、そして本年度、コロナがなければその調子で市税なりふるさと納税ももっと上がってきたかもしれませんけれども、逆に6億円減と、市税が6億円減。ふるさと納税はおかげさまで今のところ堅調であります。そうした中で私も扶助費なり土木費もやはり確保しなければいけない。様々な予算を確保する中で、やはり収入を劇的に増やすことで給食に振り向けようと私は思ってやってきましたけれども、残念ながらその収入自体が減る方向に、コロナの中で振り向いてしまったと。そういう中で、なかなか必要性は認めながらも、本年度の予算ではなかなか実行に移すことが難しいという判断をしたということの中で、総合教育会議で提案するまでにはなかなか至っていないというところでもあります。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） 今金額の話も出たので、最初にも言いましたけれども、財源を工夫しようという意思是感じています。

ただ、6億円という話も出ましたけれども、まだ安定的な財源には至っていないというふう



に見ていますし、一方で、これは芦刈さんのときにも出た話ですけれども、給食を継続的にやっ  
ていこうとするならば、安定的なそれに振り向けるための財源というのが必要だと。それは  
そのとおりだという面はあると思うので、逆に言うと行政のスリムアップということが、まだ  
切り込む余地があるはずだというふうに考えるべきだと思います。

というのは、これは神武さんも昨日言われていたかもしれませんが、ほとんどのまち  
では実施している事柄なので、太宰府の特殊事情というのは極めて言いづらい。どこか削れる  
はずだというふうに考えるべきだし、求められると思います。それはそれだけにしておきます  
けれども。

そろそろ結びにしとこうかと思いますが、今最後にちょっと言いましたけれども、今日のお  
話ですと、給食はやめにして、完全給食ではなくて、ランチサービスを続けるという考え方が  
出る可能性があるとは思いますが、その結論にしても、市民的な検証には堪えないのではない  
かと私は思いますけれども、仮にそういう選択をする場合、太宰府市は以前はその選択をして  
いるわけですけれども、全国的に見れば少数派の選択をすると。少数派はそれなりの勇気が要  
るというのが常なので、最初に給食でなければできないことということを行いましたけれど  
も、ランチサービスでしかできない教育上のメリット、そういったものは確かに持たれている  
のでしょうか。もし何かあるのであれば、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（陶山良尚議員） 教育長。

○教育長（樋田京子） ランチサービスという言い方がいいのか、選択制というふうに言ったほう  
がいいのかというのがあると思いますが、私たちは選択制昼食という言い方をしています。

すなわち、小学校のときは当然当番活動もあって、食缶でというような形で6年間、習慣と  
してやってきたという分があります。じゃあ、中学校になったらどうするのかな、じゃあ、高  
校に上がったときにどういうふうになっていくんだろうと、大人になったらどうなるんだらう  
と、徐々に徐々に自分でやっぱり判断する、自分の健康のことをきちんと考えていく力をつけ  
ていかなければならないのではないかなということも考えるところがあります。

そう考えると、それがいつなのかは別ですけれども、今の選択制というのは、そういう意味  
では中学生になったら自分で判断し、考え、選ぶと、そういう力をつけていく必要があるとい  
うご意見もいただいております。それを実践しているのが春日市だろうというふうに考えてい  
るところでございます。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員。

○5番（笠利 毅議員） その点については私からどうこう言うというよりも、先ほどちょっと言  
いましたけれども、太宰府らしさということで、それが今言われたような意味合いになるかど  
うかは別ですけれども、そういうふうにして太宰府市ならではのことを考えていただきたいな  
と。そのための舞台装置をつくってもらわないといけないんですね。さっきはプラットフォーム  
という言い方をしたかもしれませんが、今までのところ、議会も市民もほとんど出番  
がない。当事者のことを気にしているようでいて、実は市役所の中でしか話が動いていないと

というのは、ちょっと望ましい在り方ではなかったかなと思います。

最後に、今回質問するに当たって私の念頭にあったことを最後にもう一度言いますが、先ほど教育長がいろいろ申されたように、給食をめぐるには様々な課題があります。直接には、もう今の子どもたちなんですけれども、もっと様々な広がりがあります。

それは単に給食の問題ではなくて、市役所全体で支えることができることだと思いますし、最初に聞いた、何を給食で市として実現したいのかと。今直ちに給食ができないのであれば、ほかの方法でそれをサポートするといったようなことも考えることができると思います。

最初に、芦刈前市長のときにはビジョンがないから簡単に断念したんだろうという言い方をしましたけれども、似たようなことは今回についてもちょっと、ちょっとですがはっきりと感じました。

当面は子どもをめぐる教育的な理想でいいんですけども、何を給食を導入することで太宰府市の子どもたちと未来の子どもたち、未来の若者世代に何を与えたいかいうことをしっかり持っていれば、たとえ今できなくて、お金がなくてできなくても、じゃあほかの方法で今困っている子どもを助けるということを考えることができると思うし、逆に言うとそれがないと考えられないと。事務的なお金の計算だけで事を決めるのかということになってしまうことを、非常に強く懸念しています。

目標を持って市政運営に当たっていただきたいし、そのために市役所皆さんの力、知恵を市民と一緒に絞り出してほしいとだけ申して、終わりにしておきたいと思います。

これで終わります。

○議長（陶山良尚議員） 5番笠利毅議員の一般質問は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（陶山良尚議員） 以上で本日の議事日程は全て終了しました。

次の本会議は、6月16日午前10時から再開します。

本日はこれもちまして散会します。

散会 午後2時38分

~~~~~ ○ ~~~~~